

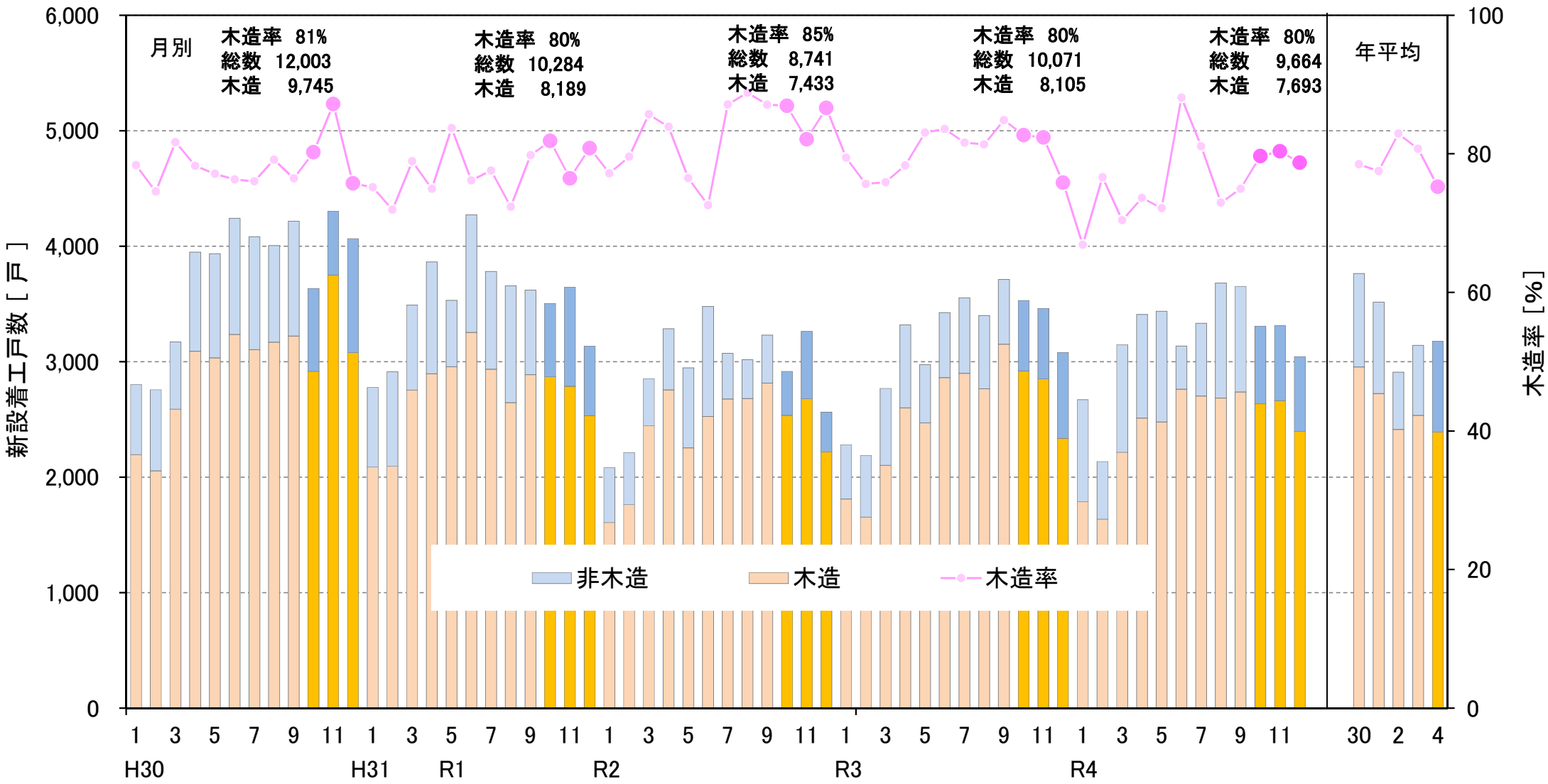
東北森林管理局管内の 木材需給及び木材価格等について

令和5年3月10日(金)

東北森林管理局

■ 東北森林管理局管内5県の新設住宅着工戸数の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

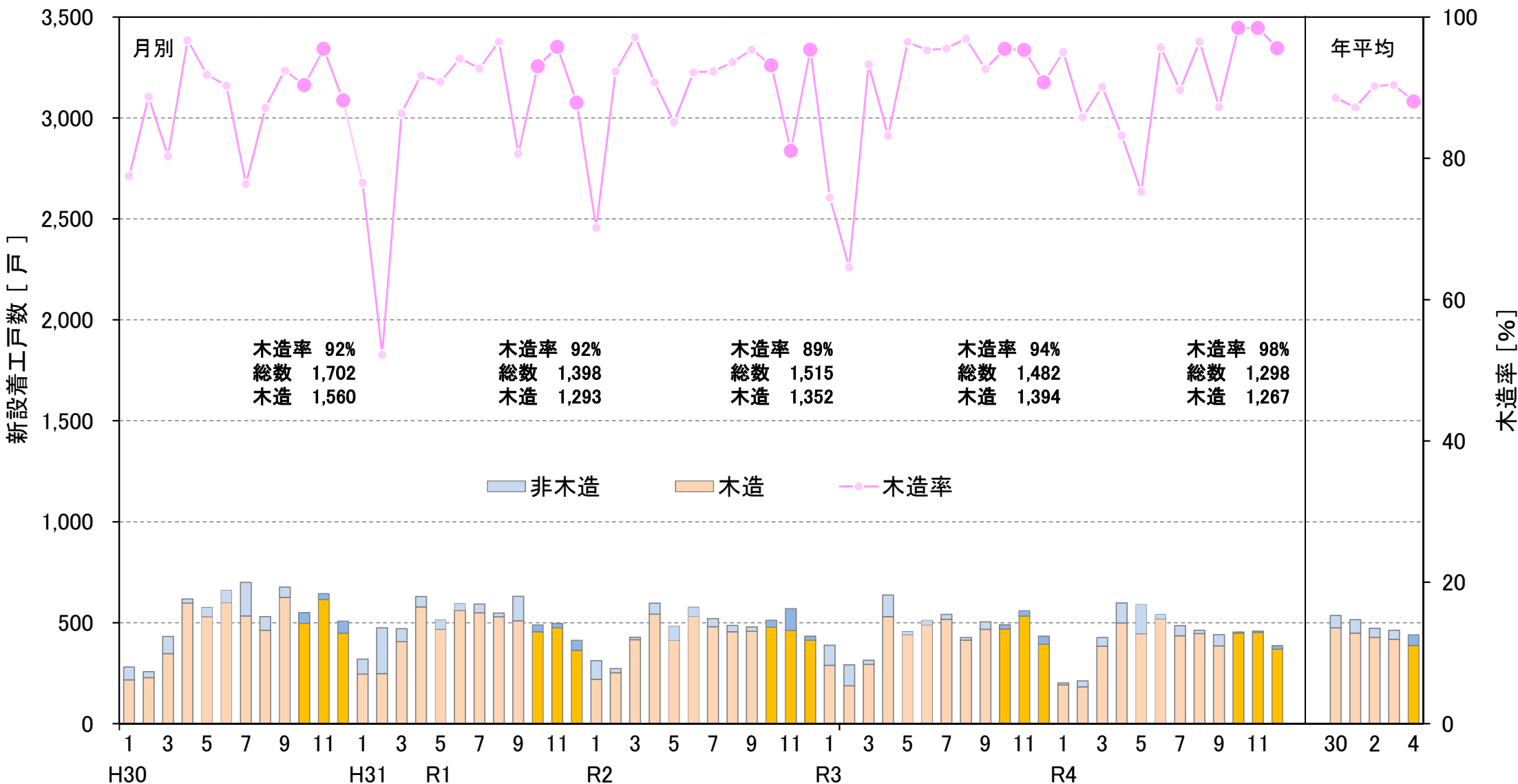
○ 東北5県の令和4年10～12月期の新設住宅着工数は、昨年同期より407戸減少した。
 この期間の木造は昨年同期より412戸減少し、木造率は±0%であった。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

青森県の新設住宅着工戸数の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

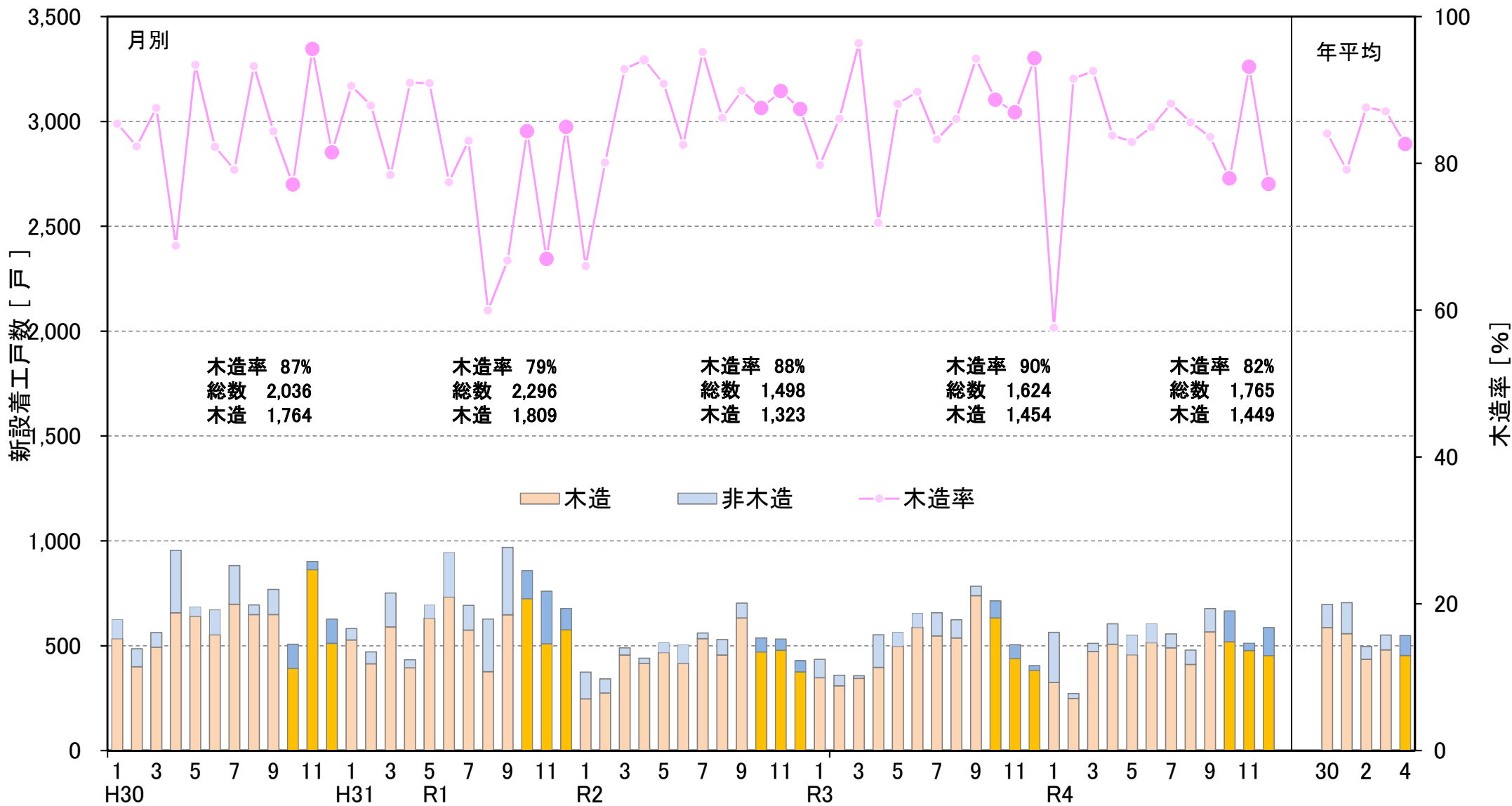
○ 青森県の令和4年10～12月期の新設住宅着工数は、昨年同期より184戸減少した。
この期間の木造は127戸減少し、木造率は4%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 岩手県の新設住宅着工戸数の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

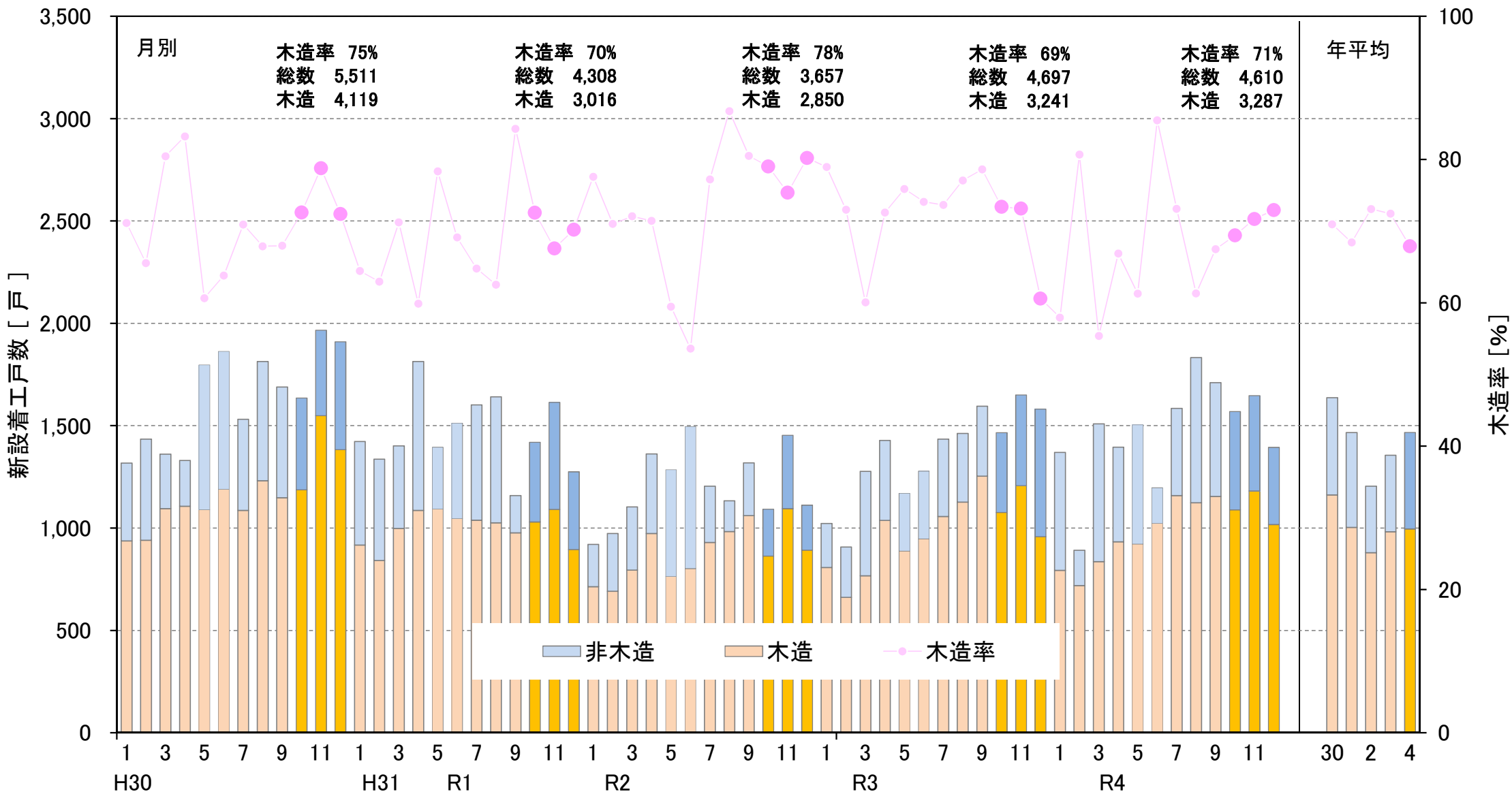
○ 岩手県の令和4年10～12月期の新設住宅着工数は、昨年同期より141戸増加した。
この期間の木造は5戸減少し、木造率は8%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

宮城県の新設住宅着工戸数の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

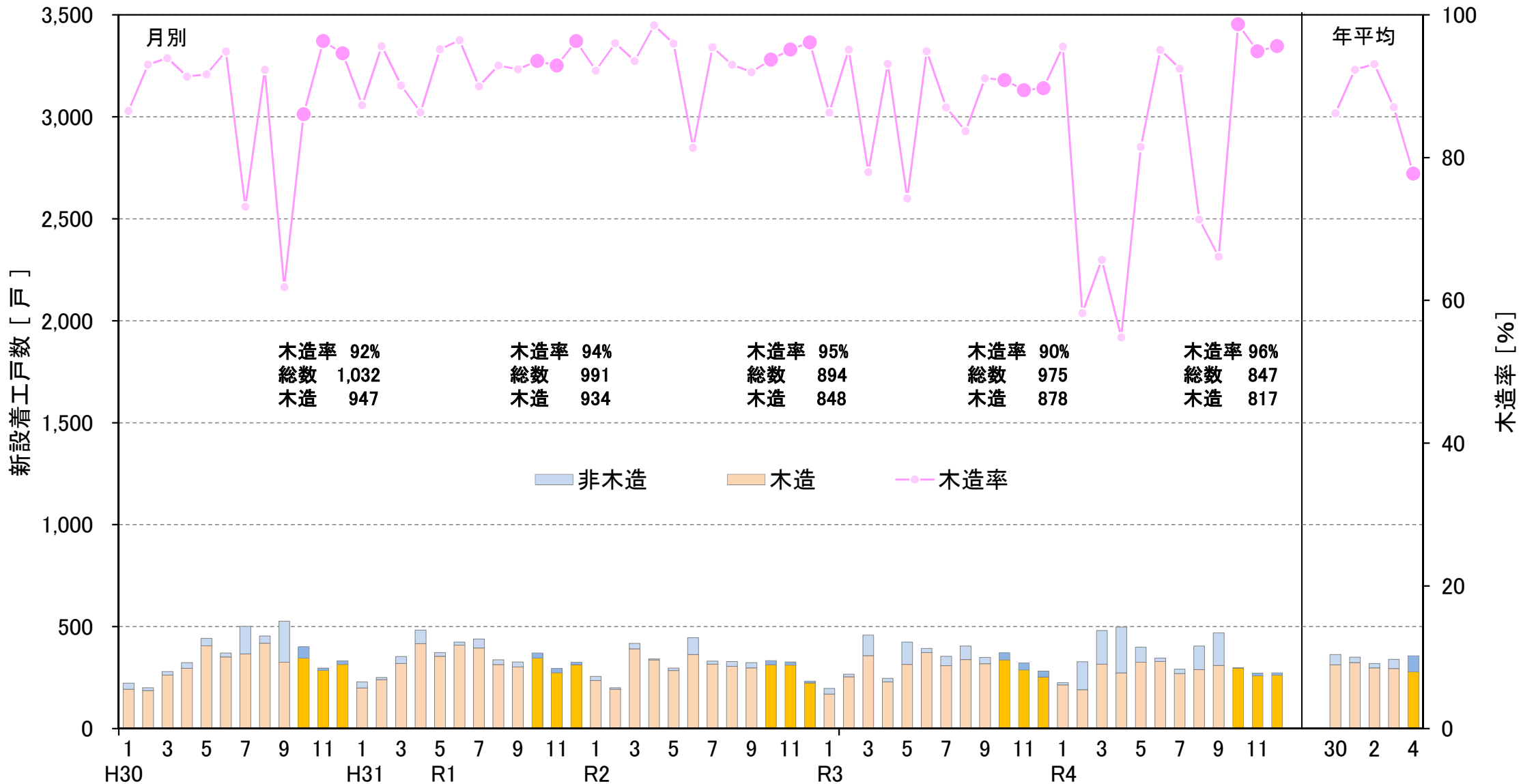
○ 宮城県の令和4年10～12月期の新設住宅着工数は、昨年同期より87戸減少した。
この期間の木造は46戸増加し、木造率は2%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 秋田県の新設住宅着工戸数の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

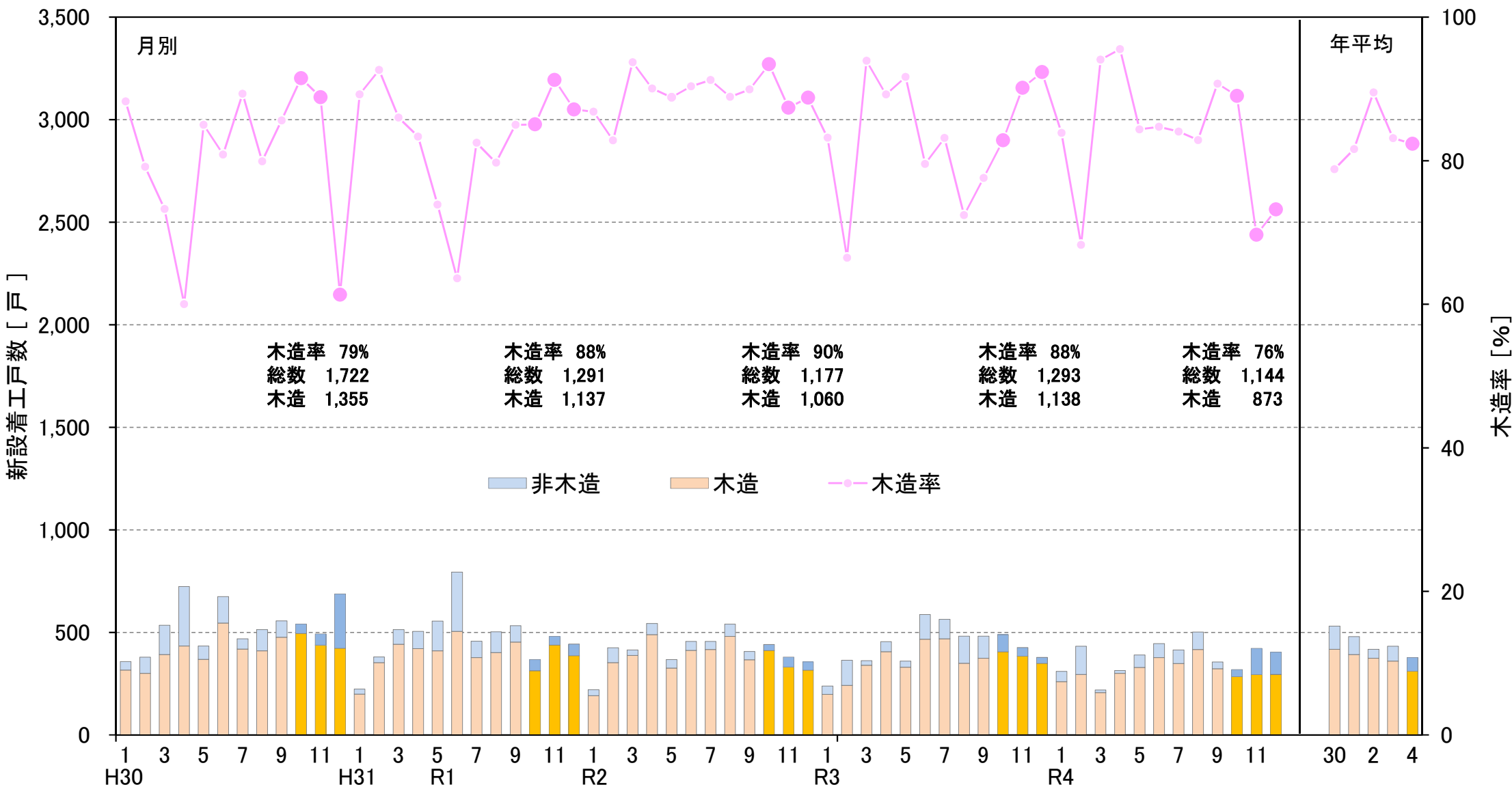
○ 秋田県の令和4年10～12月期の新設住宅着工戸数は、昨年同期より128戸減少した。
この期間の木造は61戸減少し、木造率は6%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

山形県の新設住宅着工戸数の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

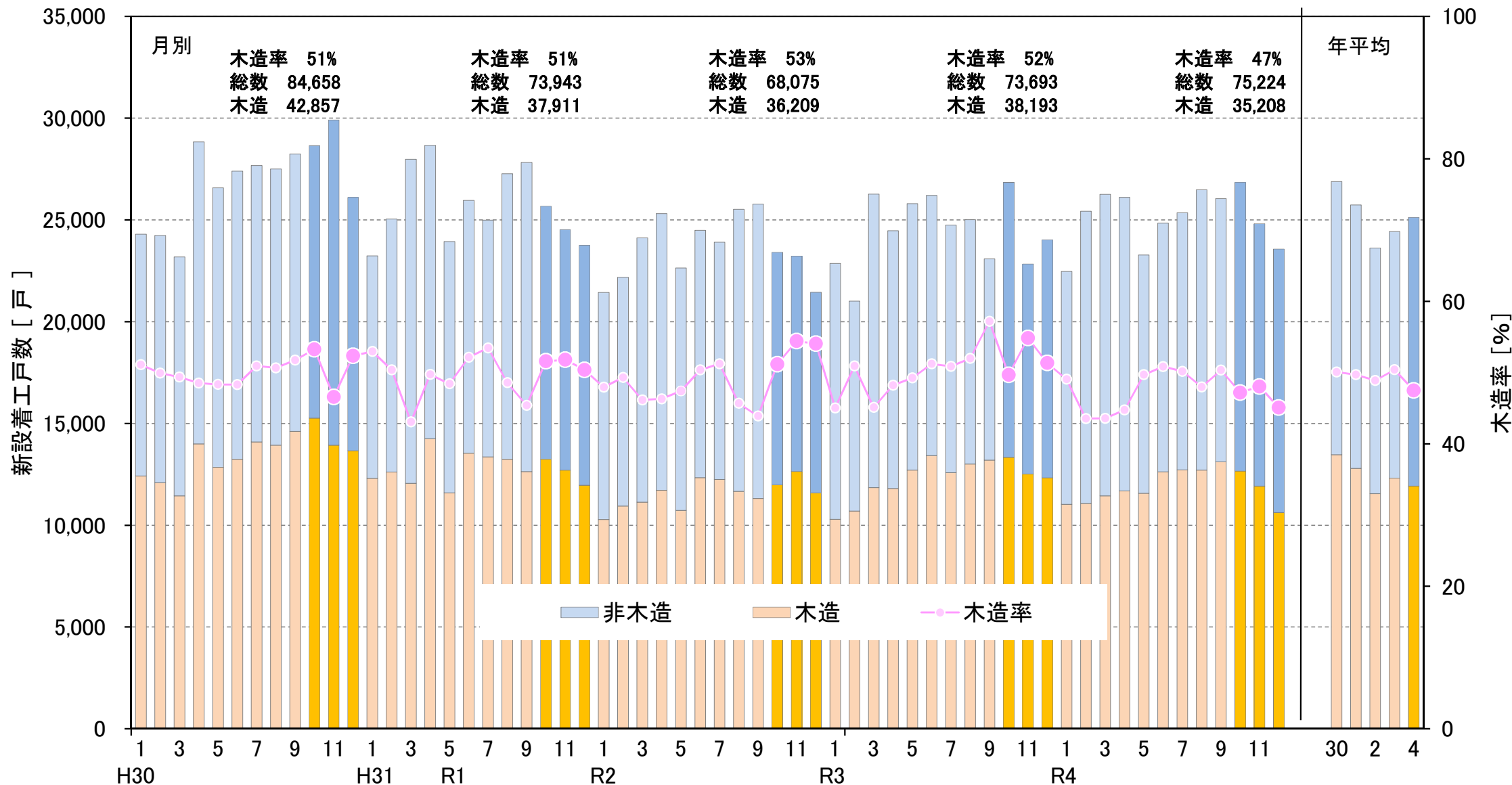
○ 山形県の令和4年10～12月期の新設住宅着工数は、昨年同期より149戸減少した。
この期間の木造は265戸減少し、木造率は12%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設住宅着工戸数の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

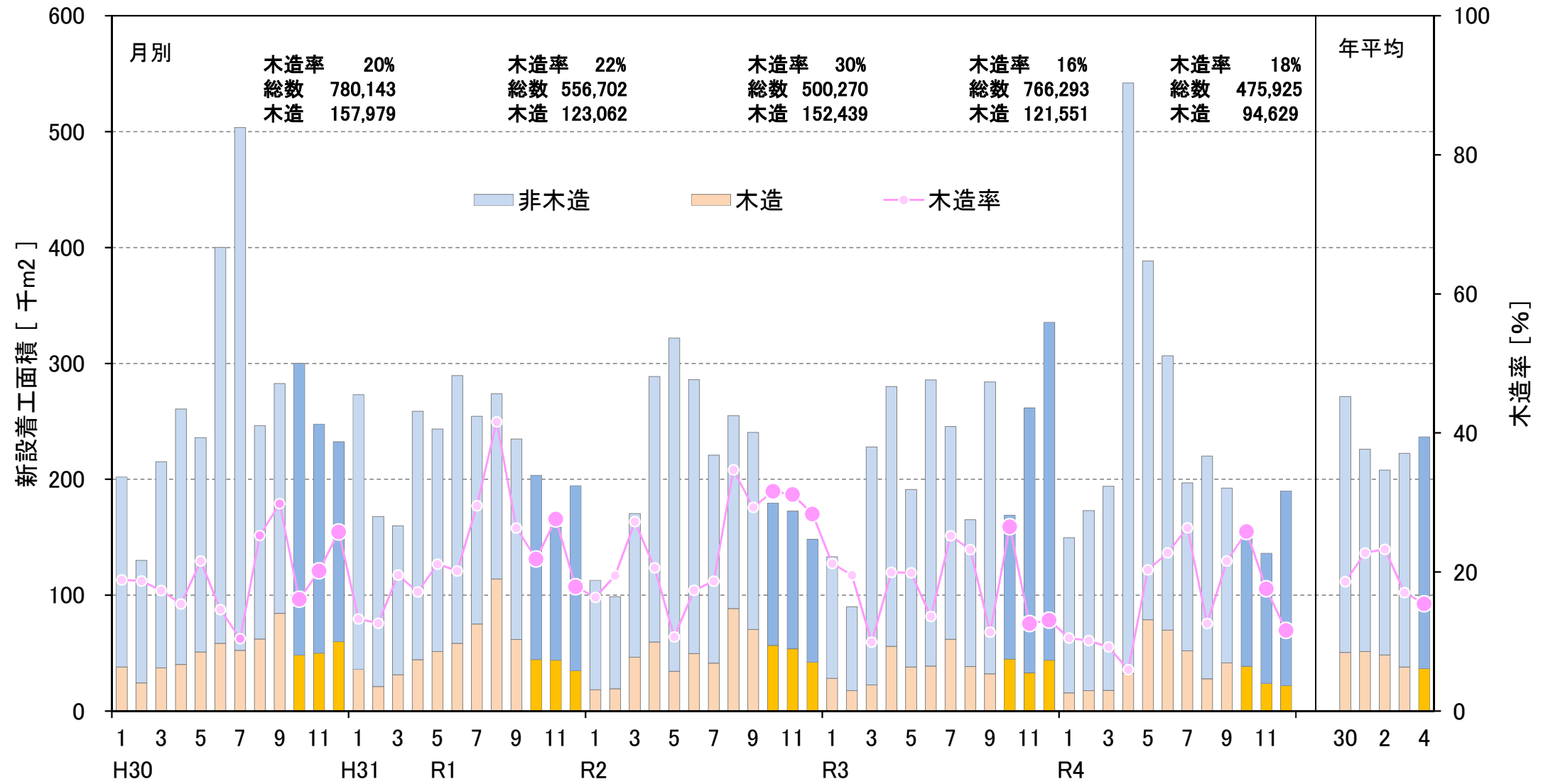
○ 関東主要都市の令和4年10～12月期の新設住宅着工数は、昨年同期より1,531戸増加した。
この期間の木造は2,985戸減少し、木造率は5%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 東北森林管理局管内5県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

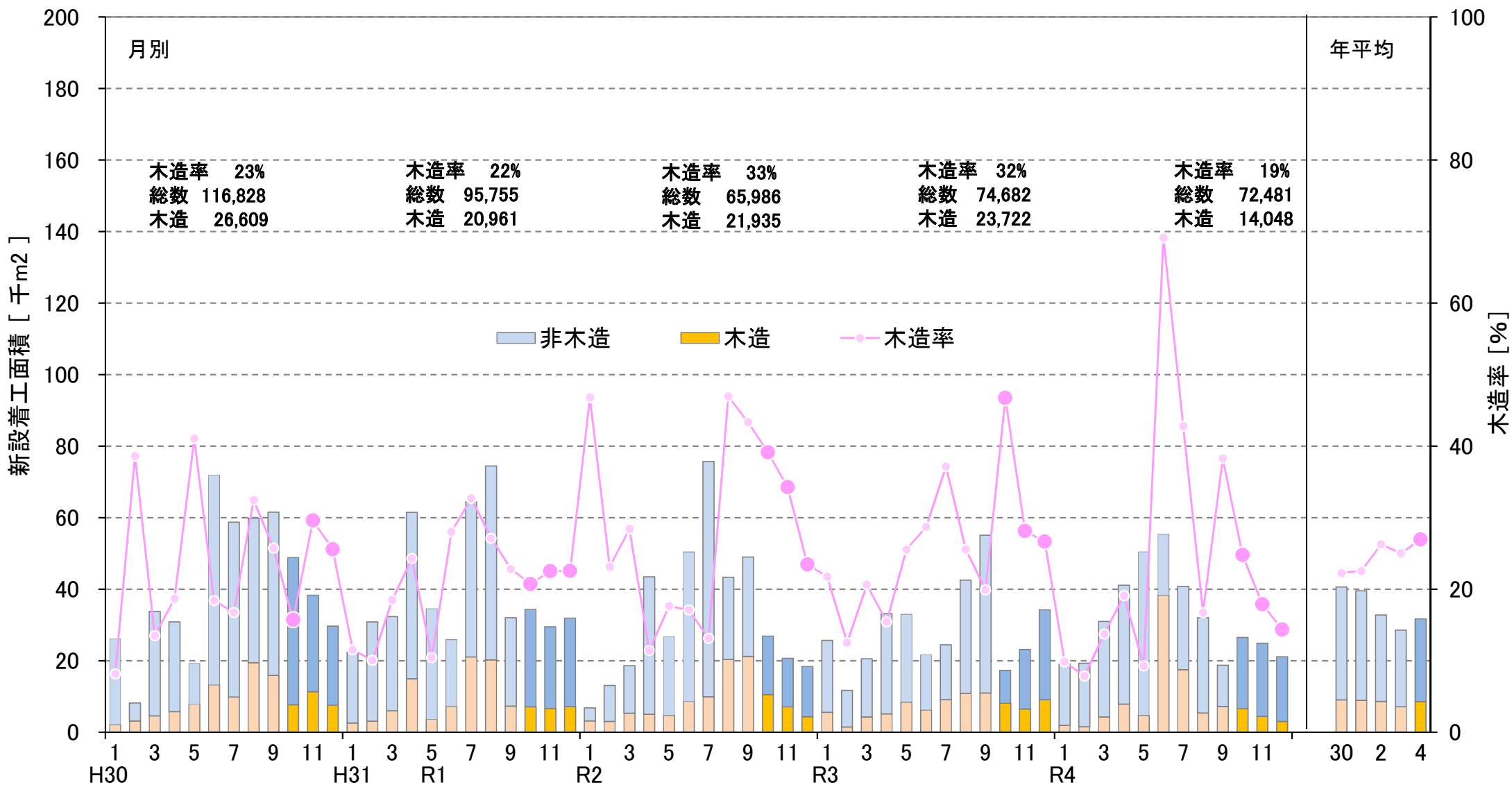
○ 東北5県の令和4年10～12月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より290,368㎡減少した。この期間の木造は昨年同期より36,922㎡減少し、木造率は2%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 青森県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

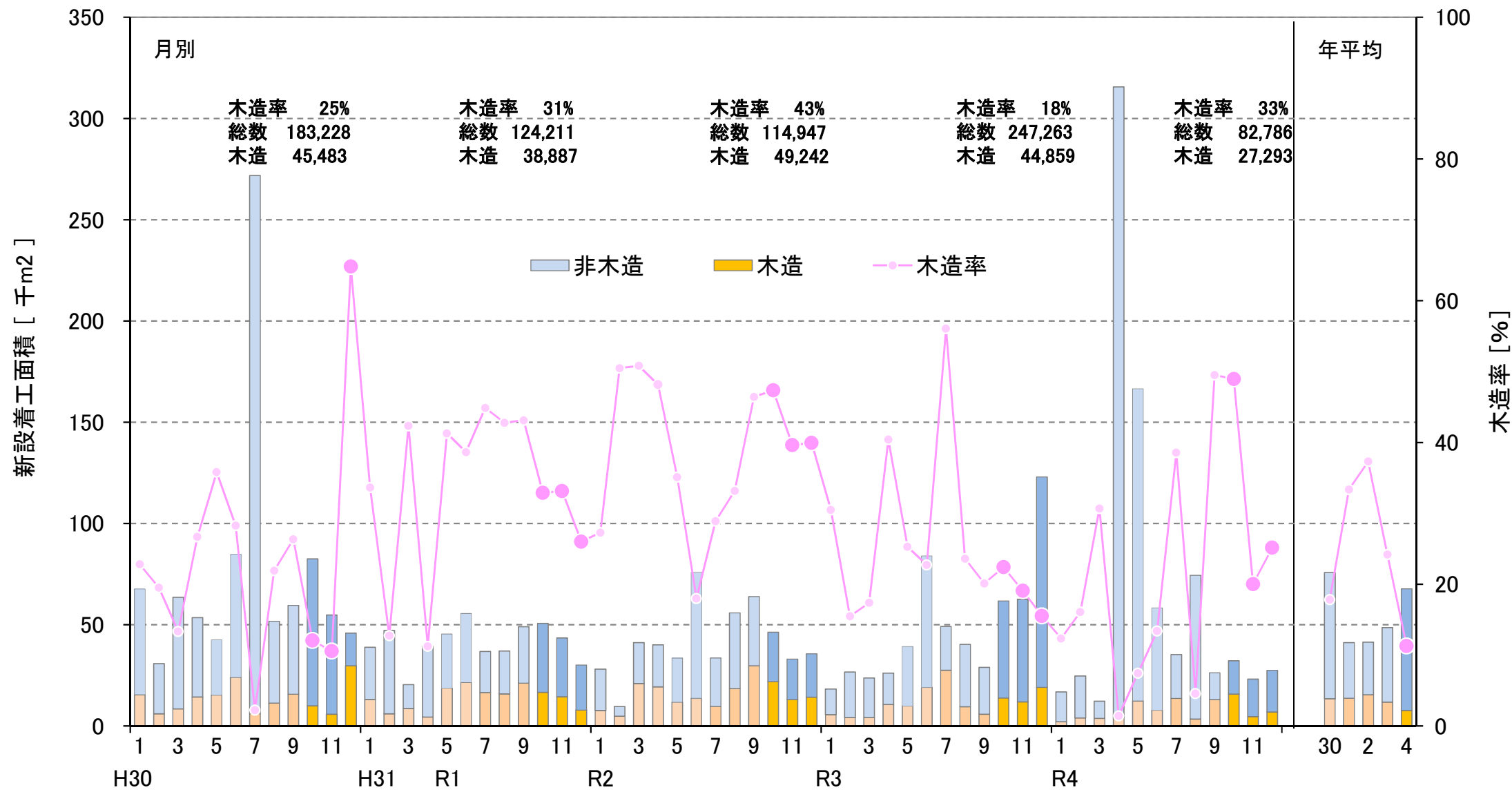
○ 青森県の令和4年10～12月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より2,201㎡減少した。
この期間の木造は9,674㎡減少し、木造率は13%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 岩手県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

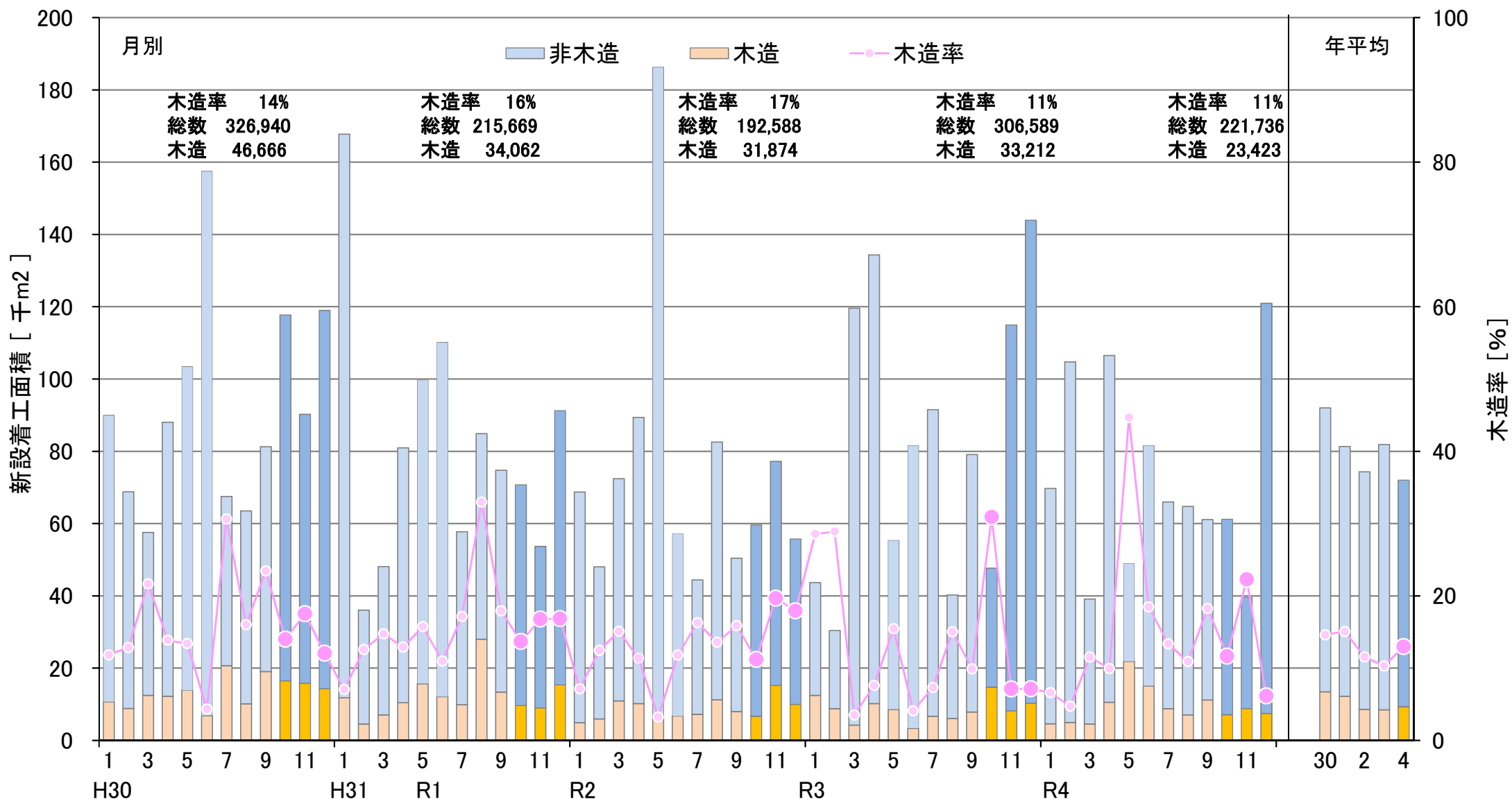
○ 岩手県の令和4年10～12月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より164,477㎡減少した。この期間の木造は17,566㎡減少し、木造率は15%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

宮城県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

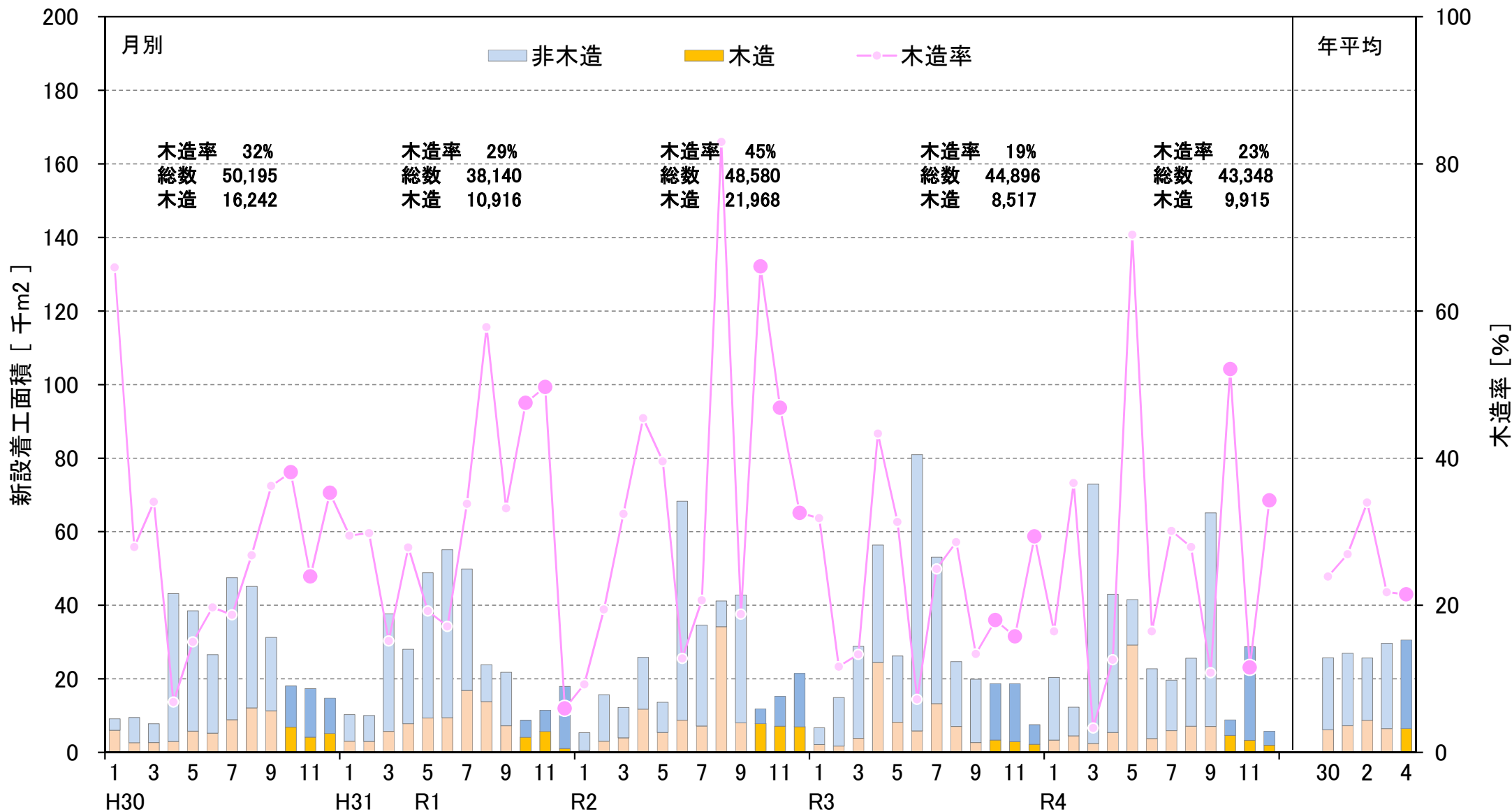
○ 宮城県の令和4年10～12月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より84,853㎡減少した。この期間の木造は9,789㎡減少し、木造率は±0%であった。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 秋田県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

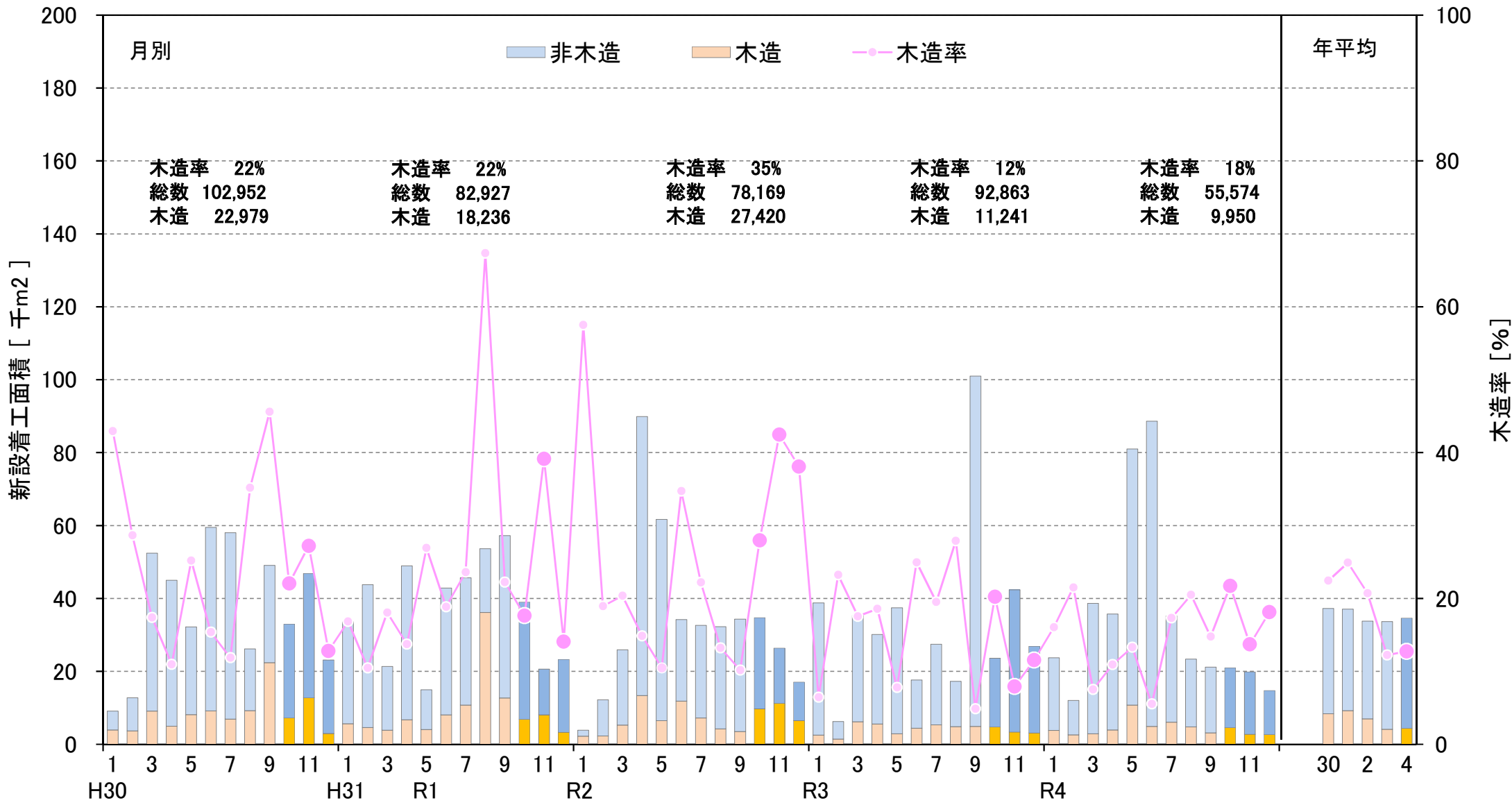
○ 秋田県の令和4年10～12月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より1,548㎡減少した。
この期間の木造は1,398㎡増加し、木造率は4%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

山形県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

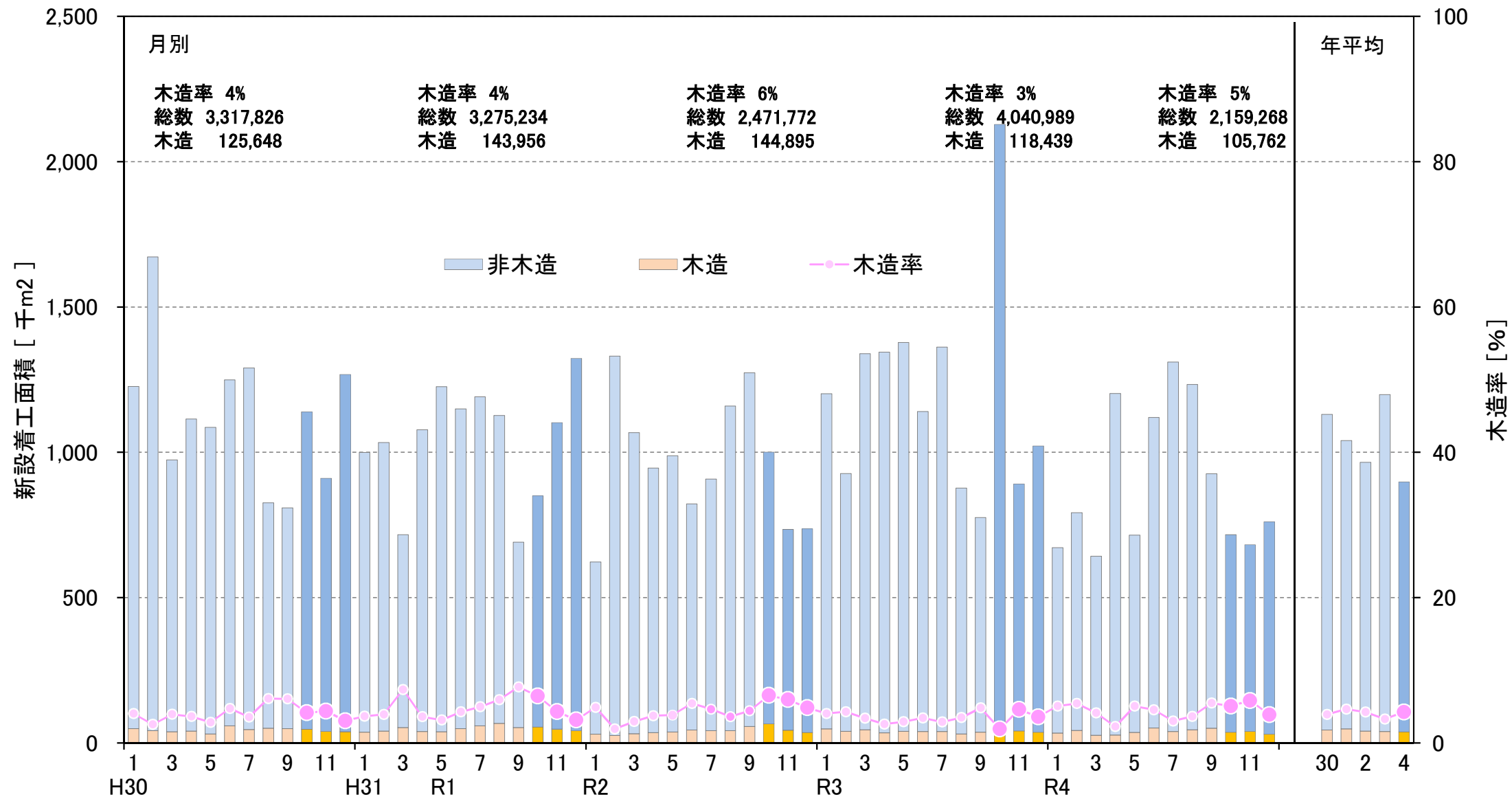
○ 山形県の令和4年10～12月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より37,289㎡減少した。この期間の木造は1,291㎡減少し、木造率は6%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

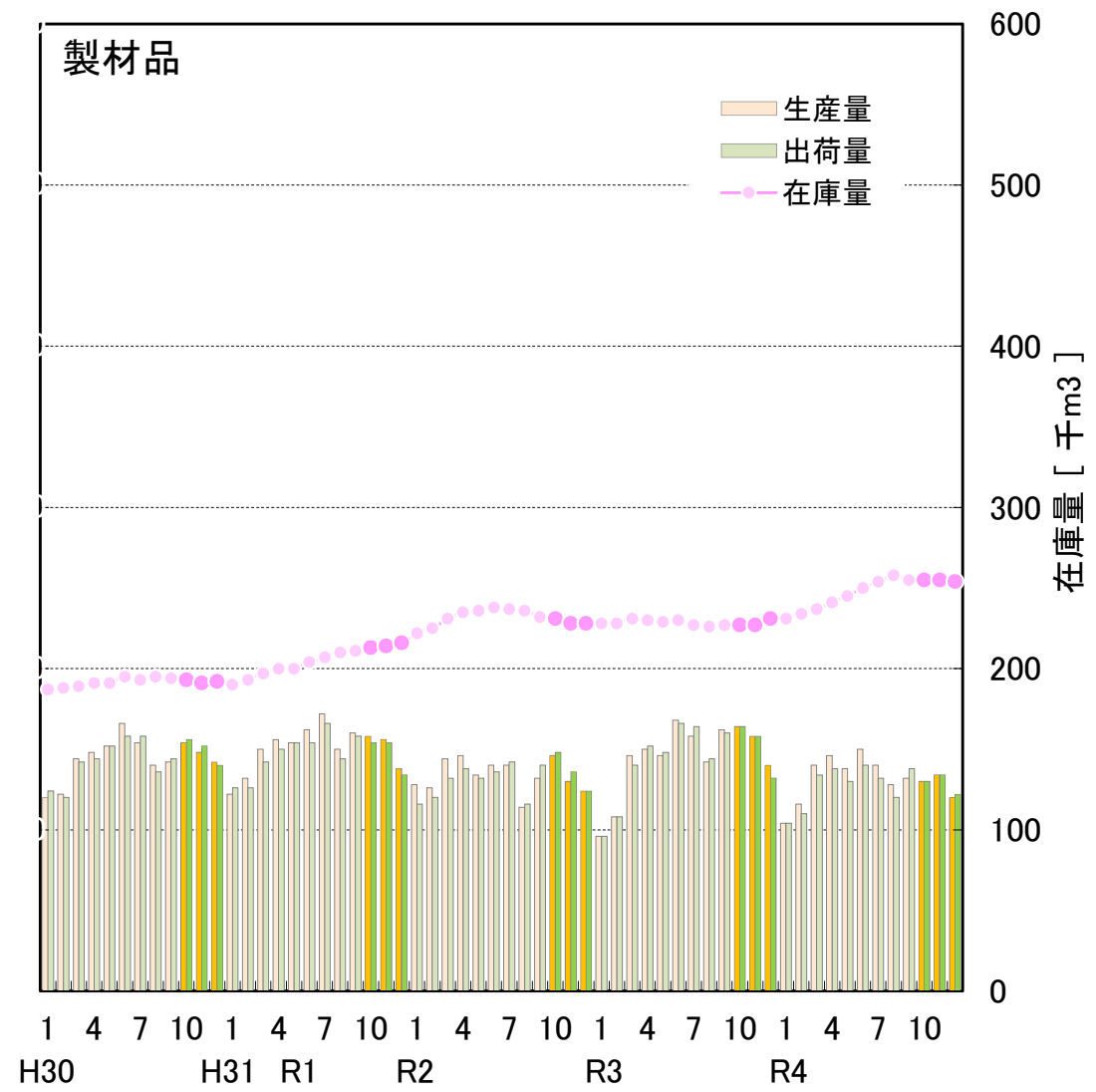
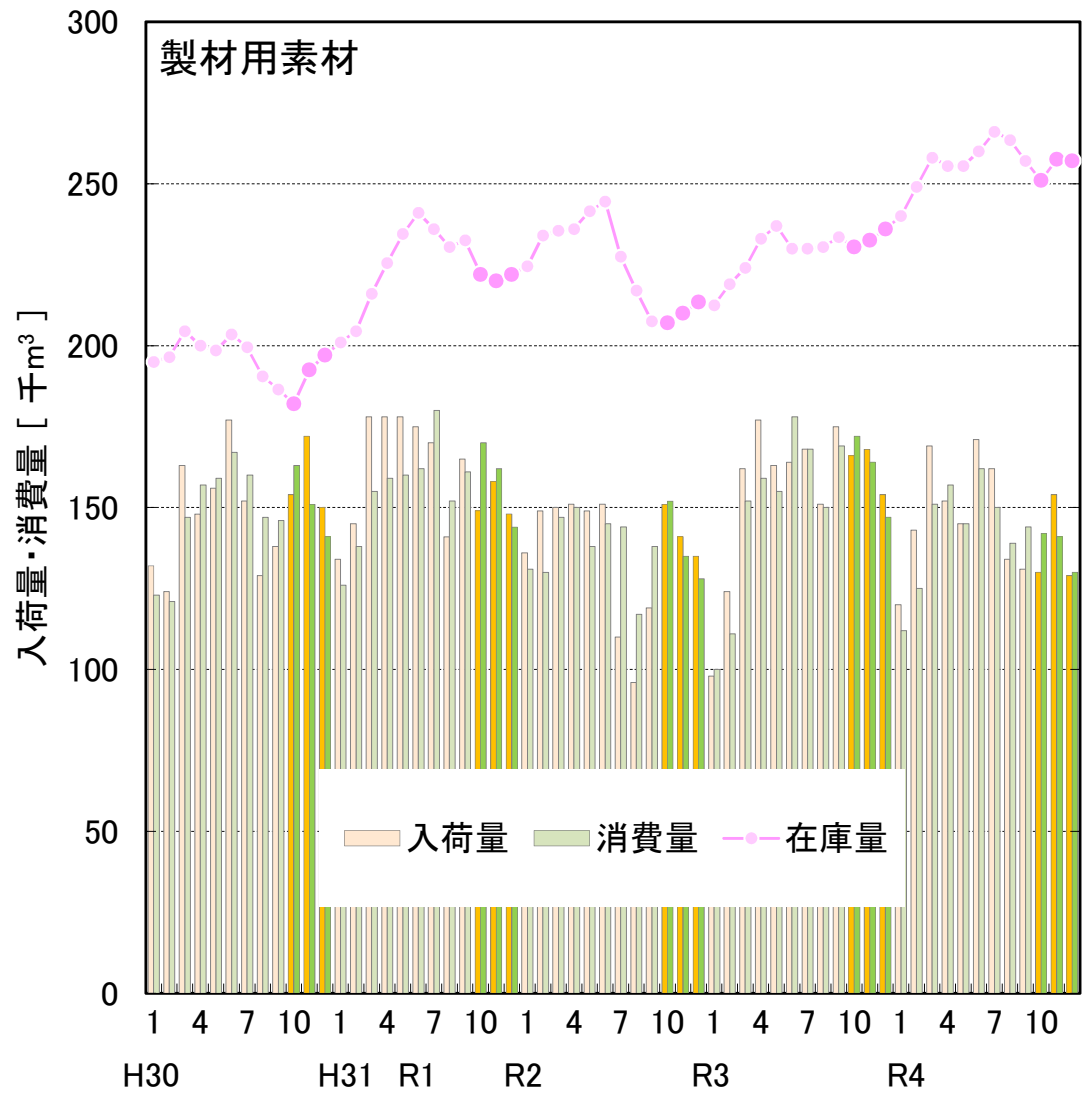
○ 関東主要都市の令和4年10～12月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より1,881,721㎡減少した。この期間の木造は12,677㎡減少し、木造率は2%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 東北5県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年12月）

○ 東北5県の製材用素材の令和4年10～12月の入荷量は昨年同期比－15%、消費量は－14%、在庫量は12月比＋9%。
 ○ 製材品の令和4年10～12月の生産量は昨年同期比－17%、出荷量は－15%、在庫量は12月比＋10%。

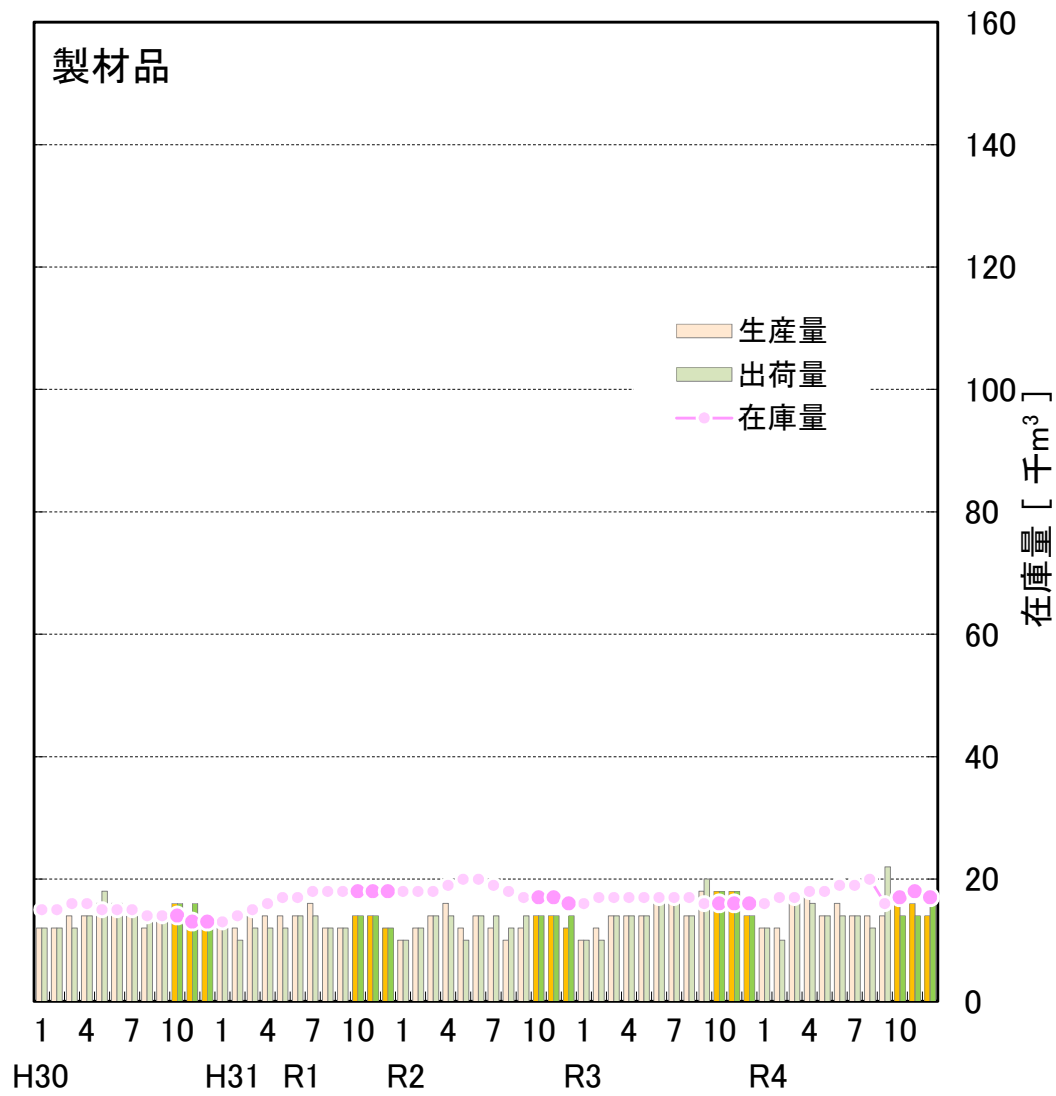
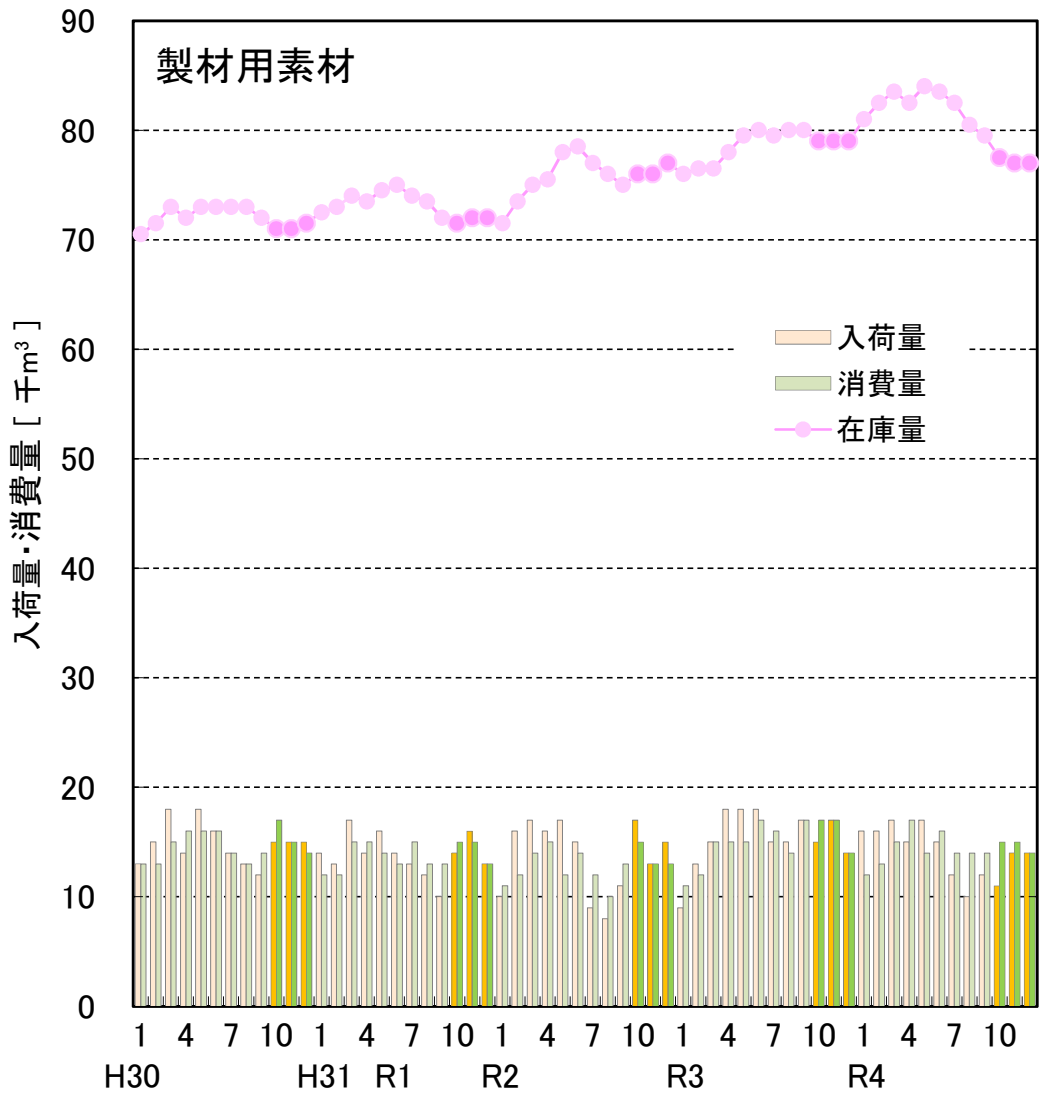


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

青森県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年12月）

○ 製材用素材の令和4年10～12月の入荷量は昨年同期比－15%、消費量は－8%、在庫量は12月比－3%。
 ○ 製材品の令和4年10～12月の生産量は昨年同期比－8%、出荷量は－12%、在庫量は12月比＋6%。

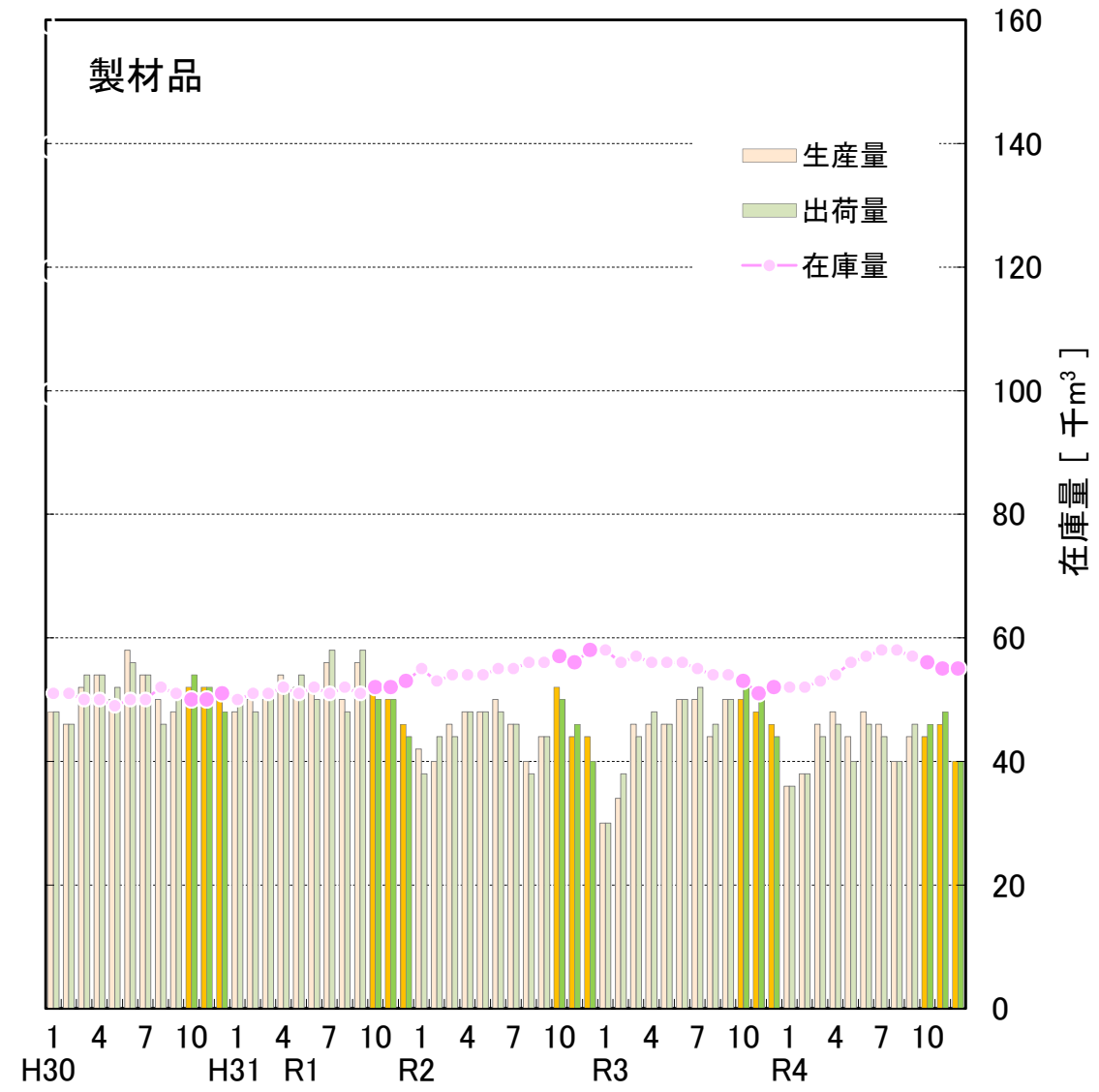
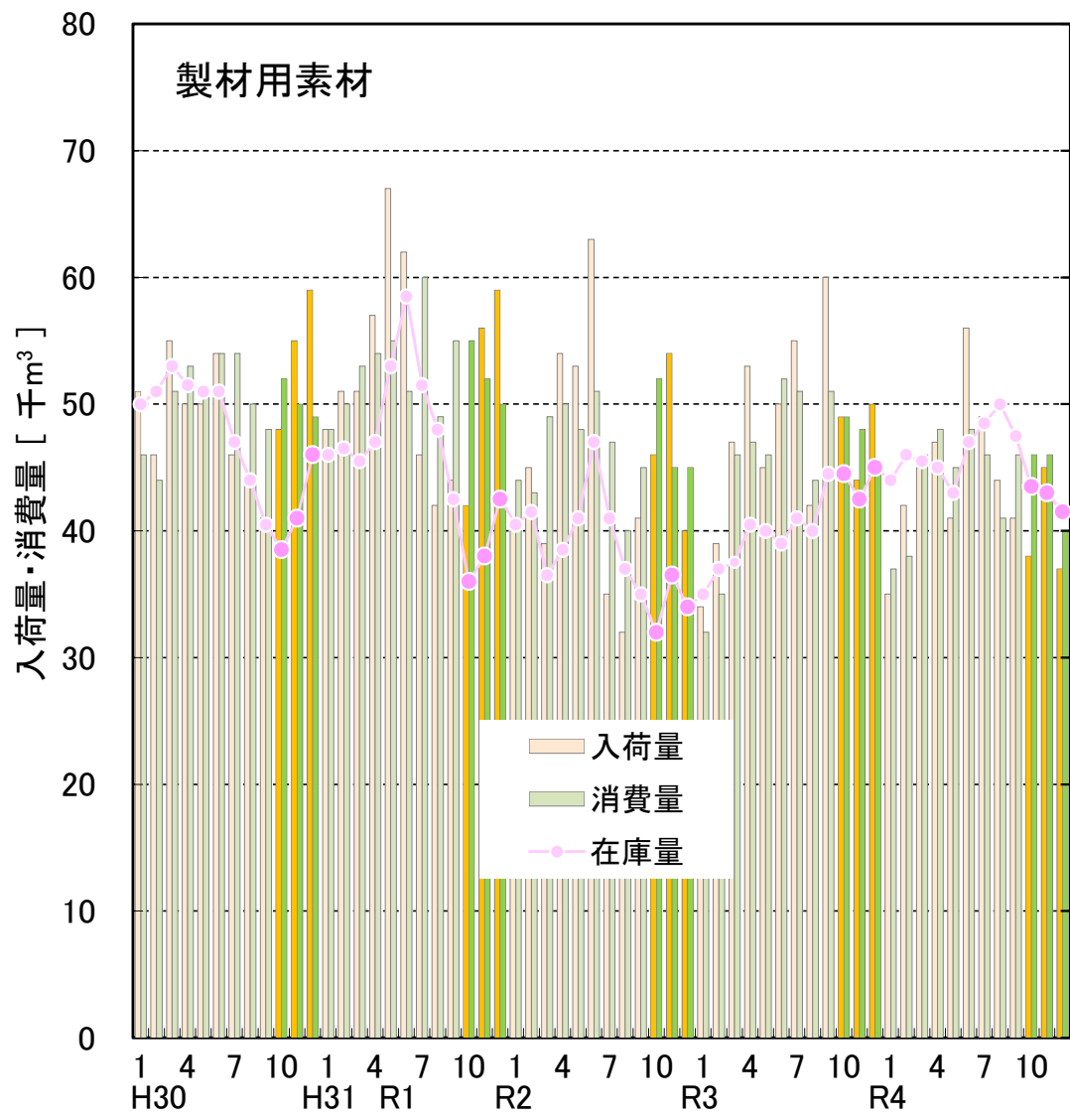


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 岩手県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年12月）

○ 製材用素材の令和4年10～12月の入荷量は昨年同期比－16%、消費量は－7%、在庫量は12月比－8%。
 ○ 製材品の令和4年10～12月の生産量は昨年同期比－10%、出荷量は－9%、在庫量は12月比＋6%。

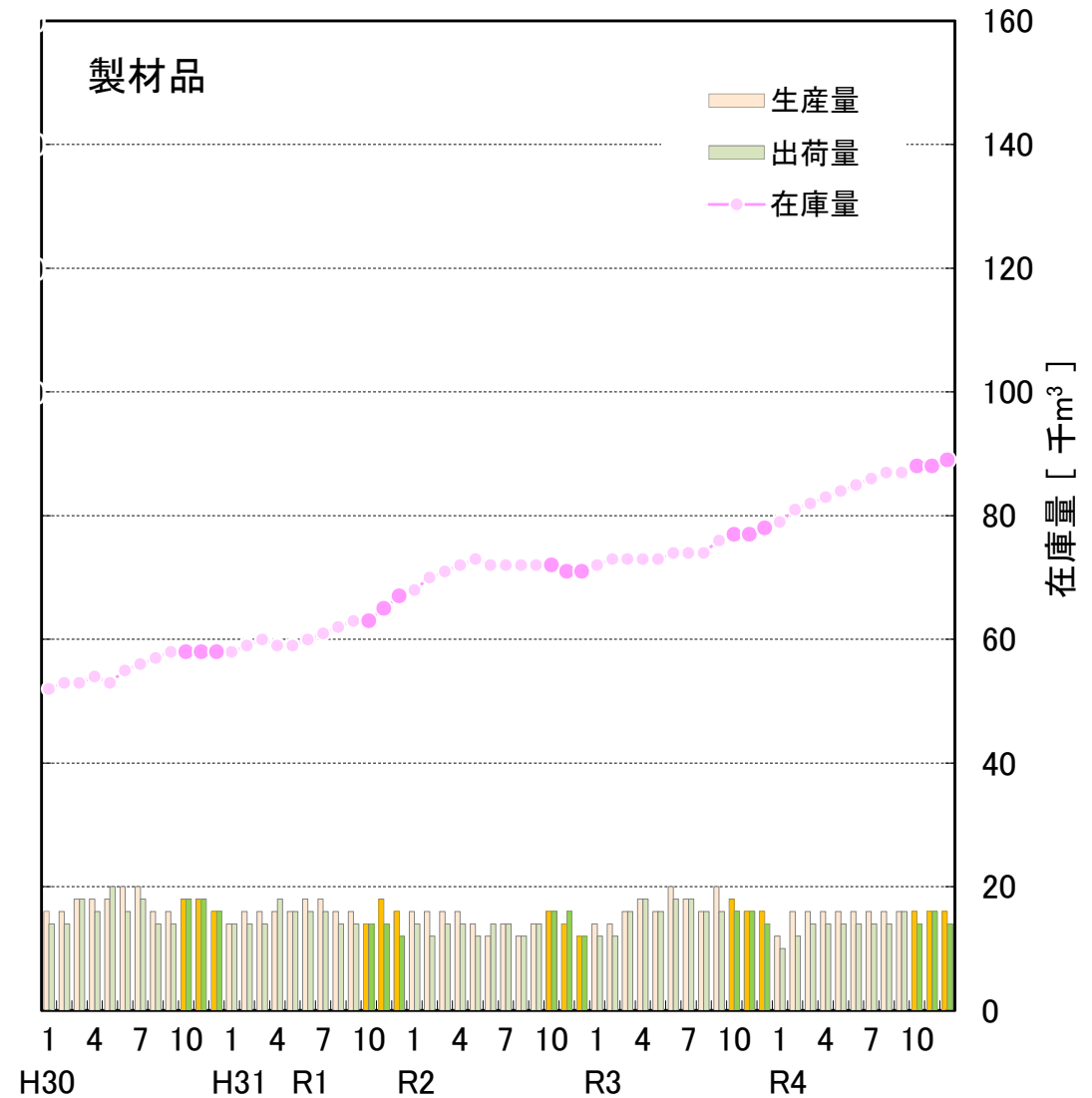
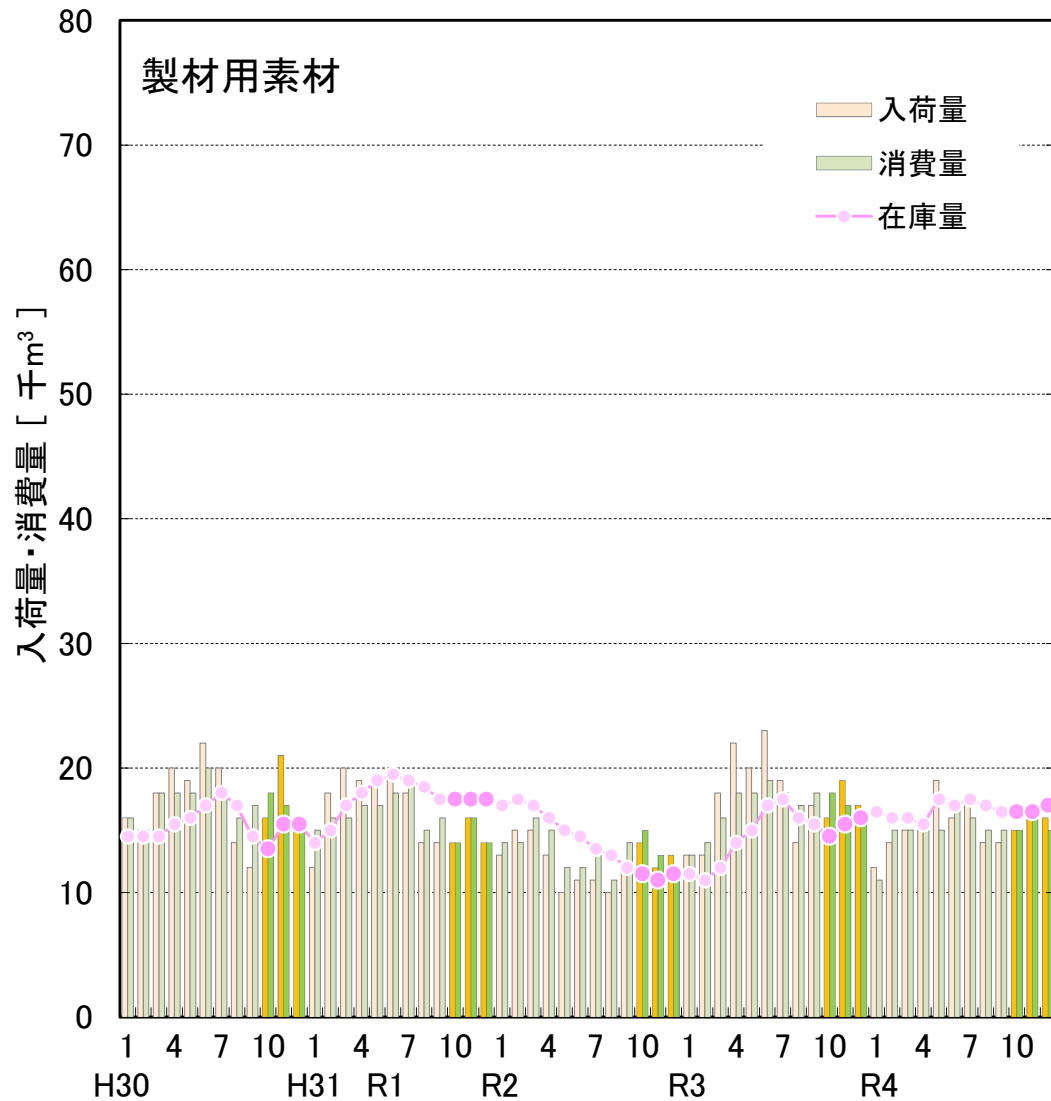


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

宮城県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年12月）

- 製材用素材の令和4年10～12月の入荷量は昨年同期比－10%、消費量は－10%、在庫量は12月比＋6%。
- 製材品の令和4年10～12月の生産量は昨年同期比－4%、出荷量は－4%、在庫量は12月比＋14%。

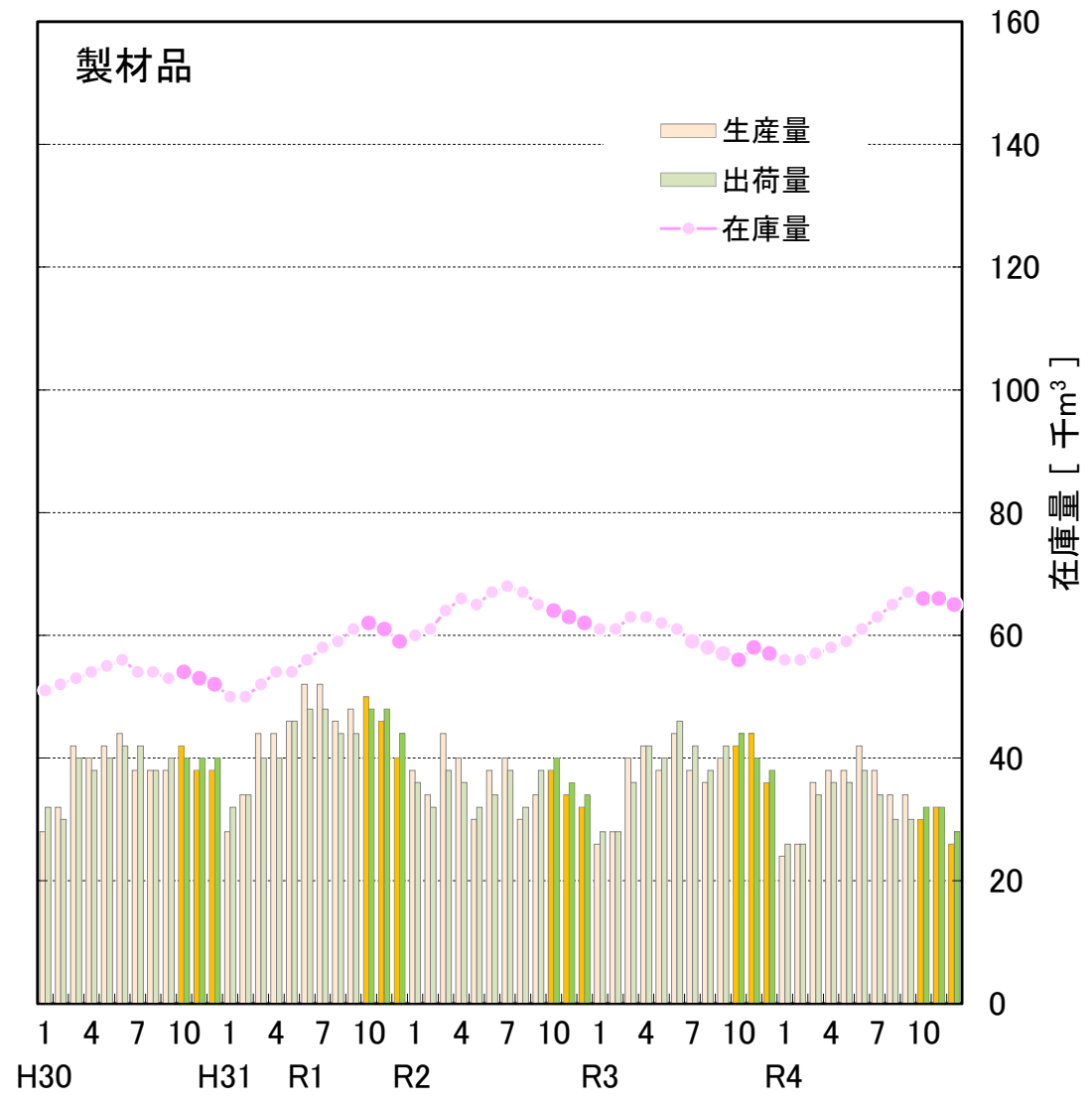
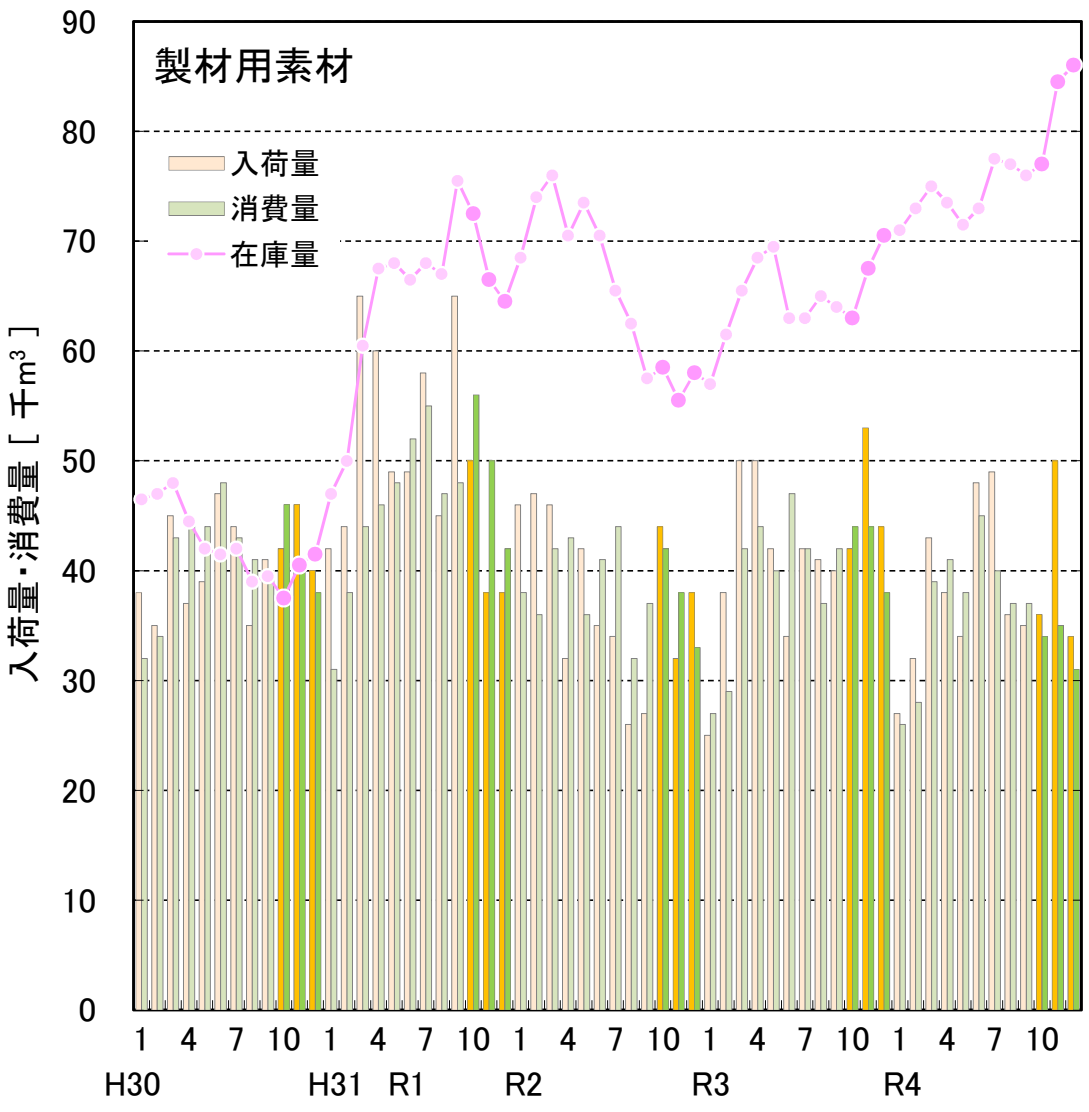


出典：農林水産省「木材需給報告書」製材統計

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 秋田県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年12月）

○ 製材用素材の令和4年10～12月の入荷量は昨年同期比-14%、消費量は-21%、在庫量は12月比+22%。
 ○ 製材品の令和4年10～12月の生産量は昨年同期比-28%、出荷量は-25%、在庫量は12月比+14%。

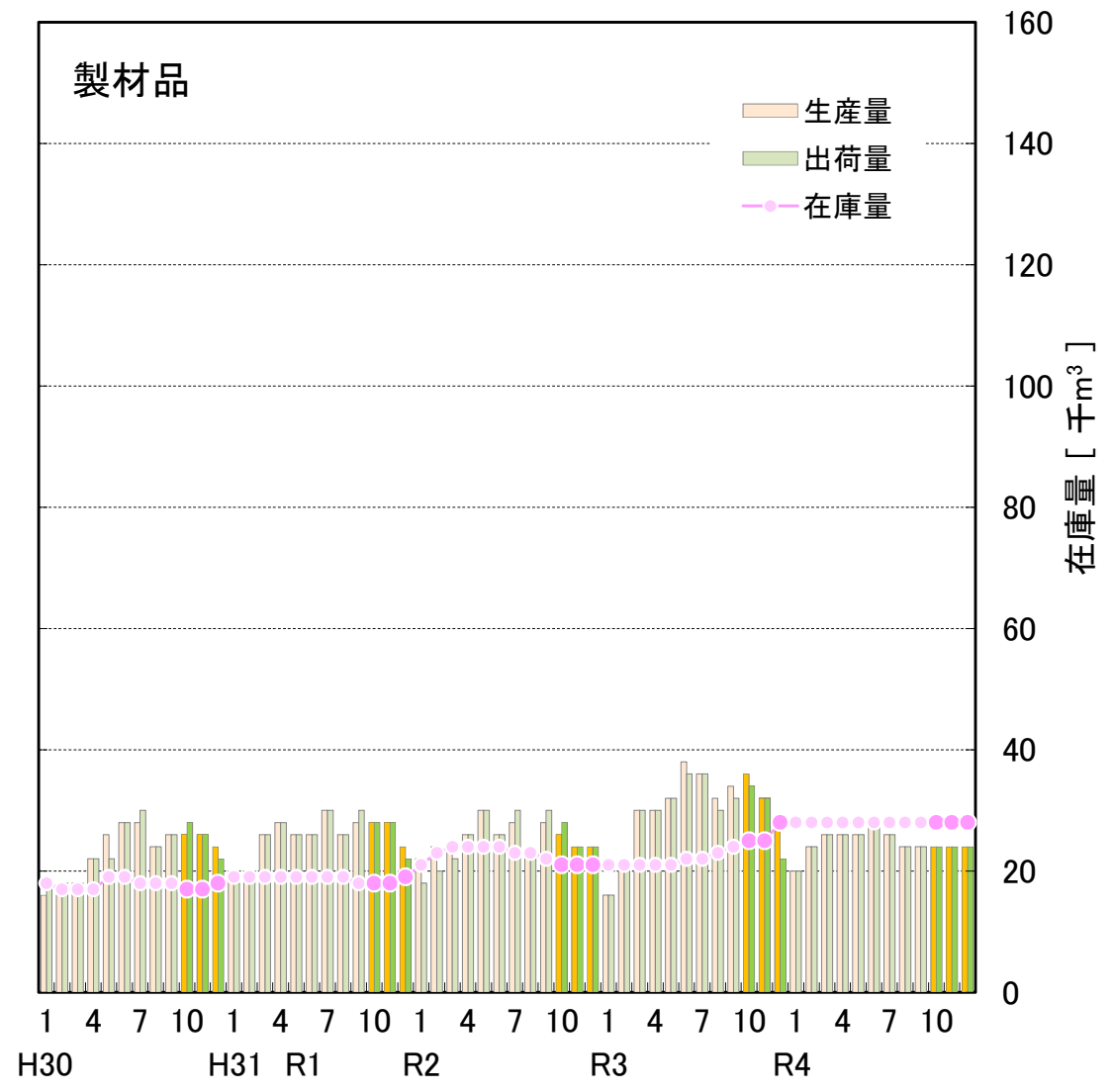
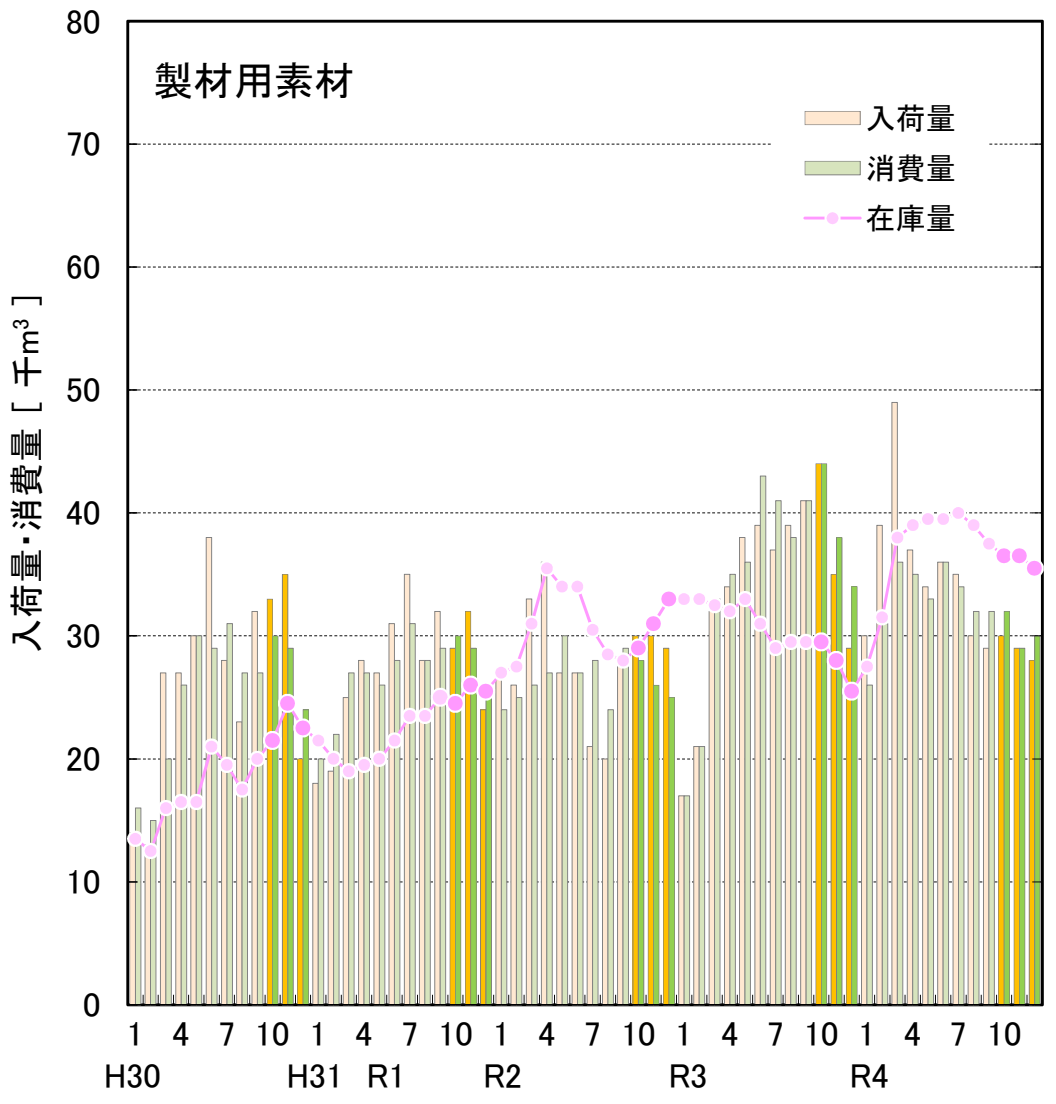


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

山形県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年12月）

○ 製材用素材の令和4年10～12月の入荷量は昨年同期比－19%、消費量は－22%、在庫量は12月比＋39%。
 ○ 製材品の令和4年10～12月の生産量は昨年同期比－25%、出荷量は－18%、在庫量は12月比±0%。



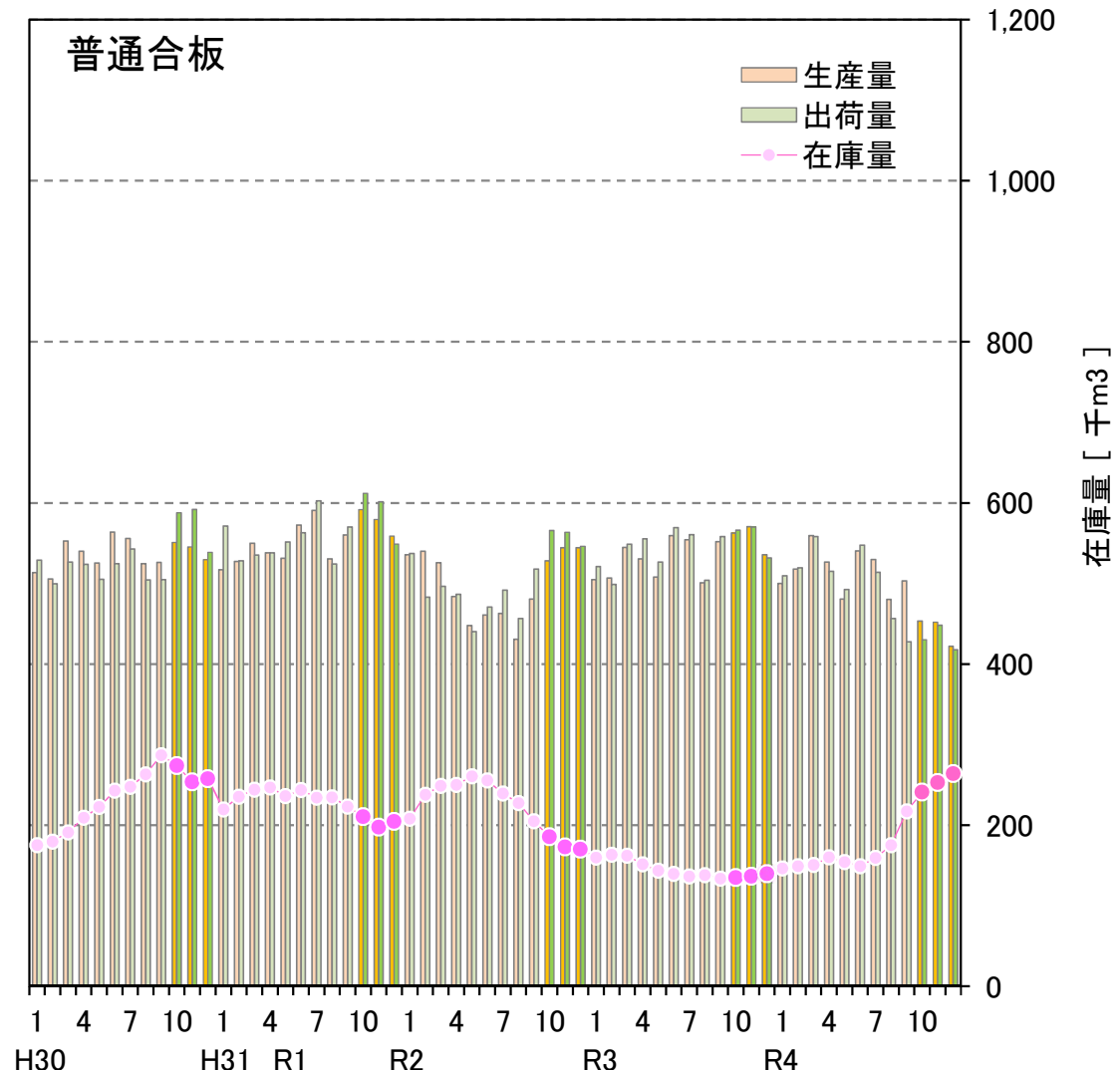
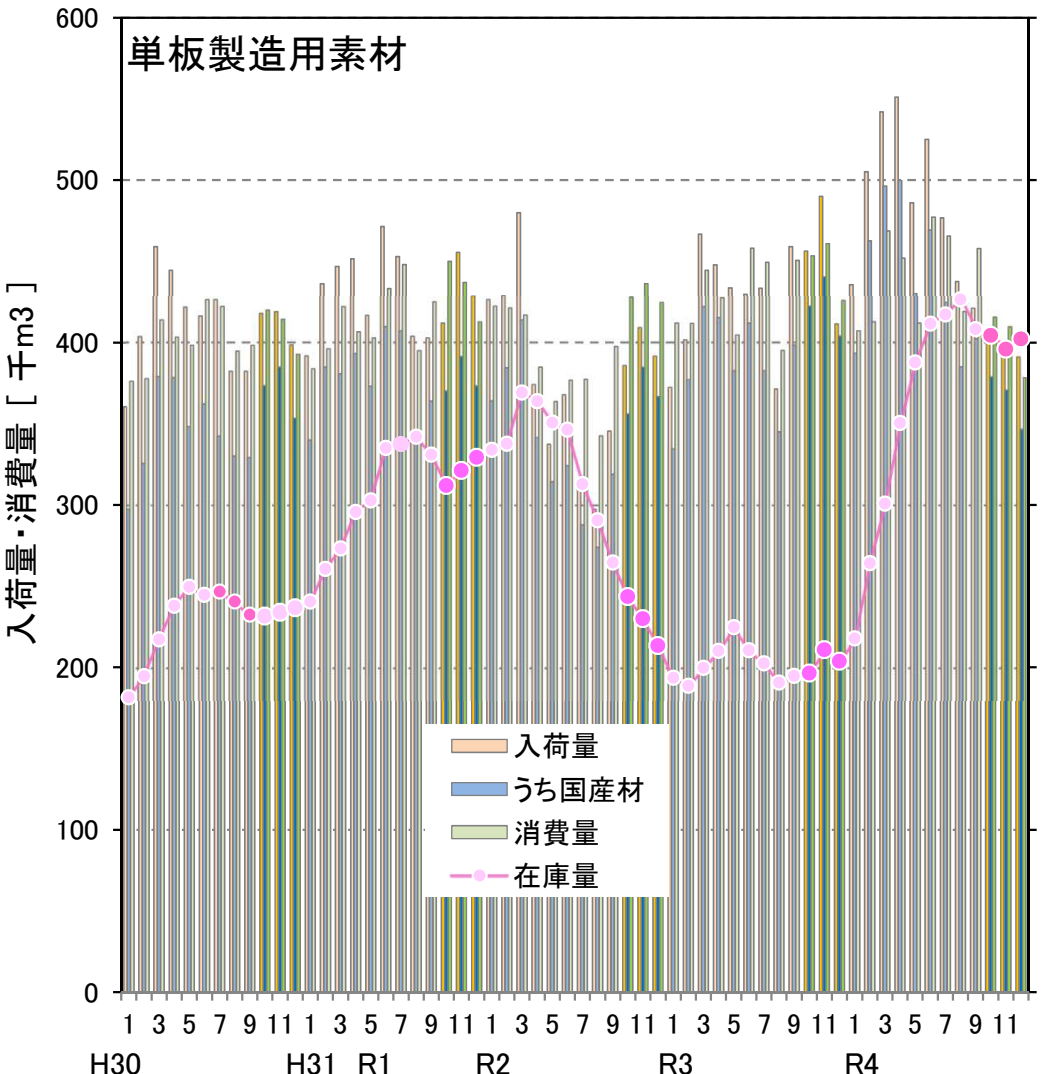
出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 全国の単板製造用素材・普通合板の生産量等の推移（平成30年1月～令和4年12月）

○ 単板製造用素材の令和4年10～12月期の入荷量は昨年同期比－12%、うち国産材は－13%、消費量は－10%、在庫量は12月比＋97%。

○ 普通合板の令和4年10～12月期の生産量は昨年同期比－20%、出荷量は－22%、在庫量は12月比＋89%。

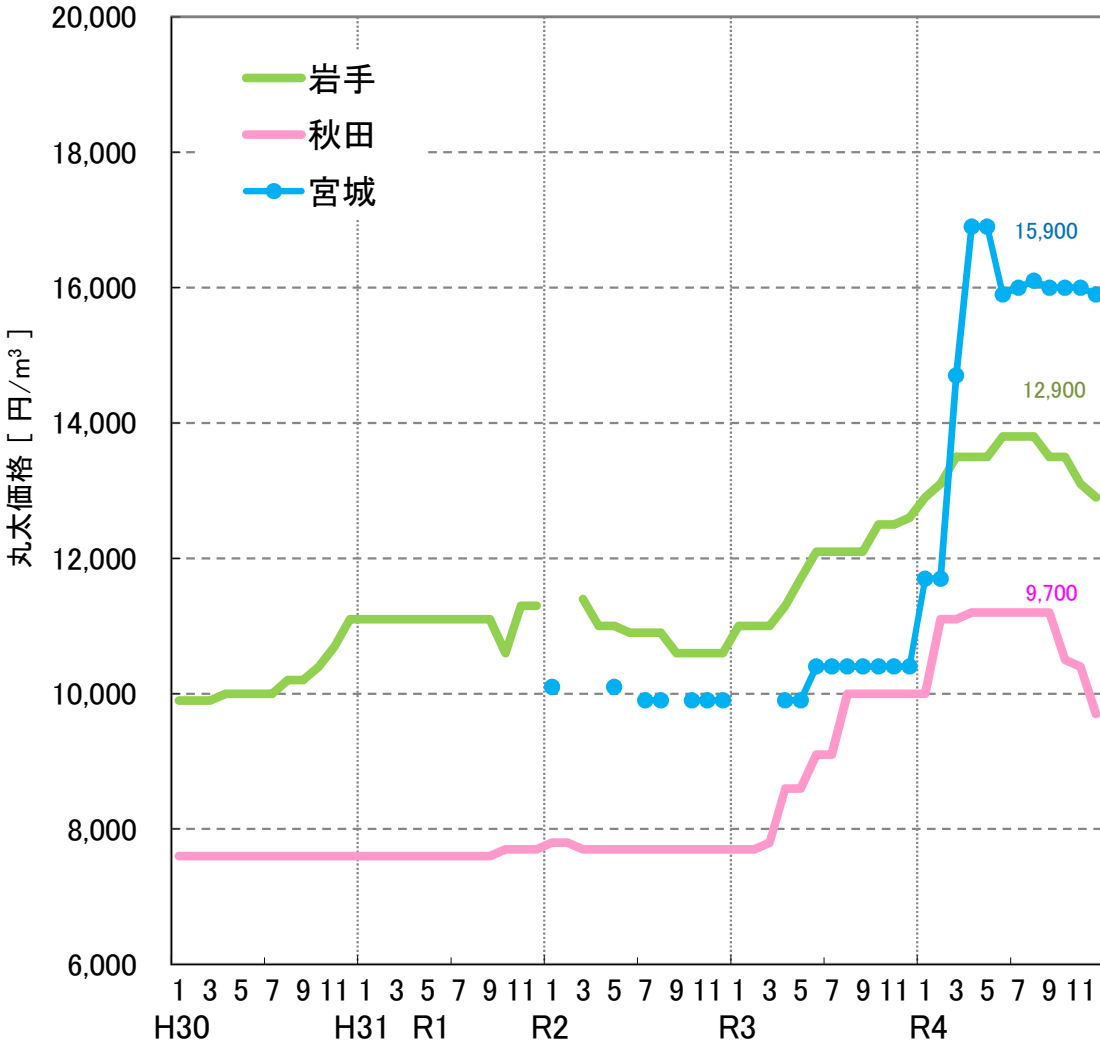


出典：農林水産省「合板統計」

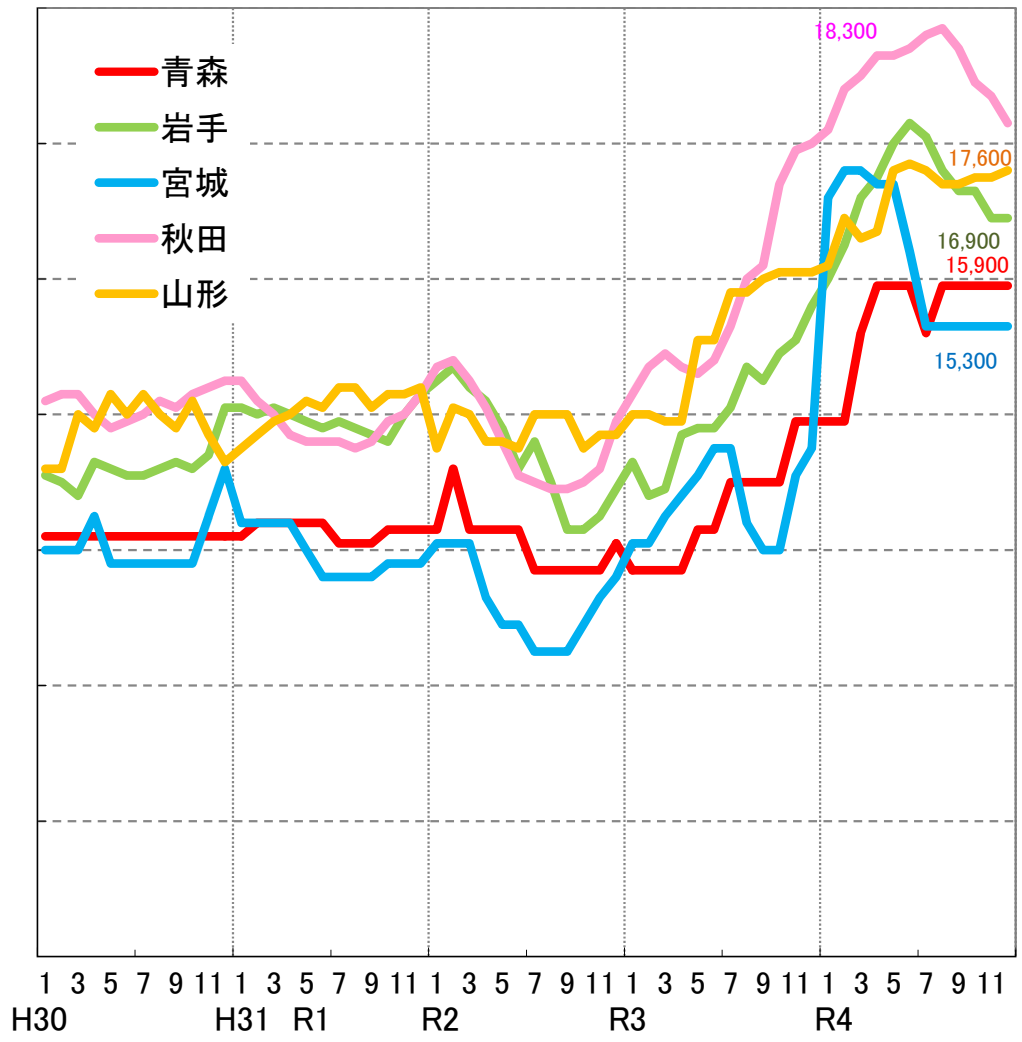
■ すぎ丸太価格の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

○ すぎ小丸太価格は、各県ともピーク時から値下がり。
 ○ すぎ中丸太価格は、青森、宮城で保合、山形で強含み。

すぎ小丸太 3.65～4.00m (8～13cm)



すぎ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)

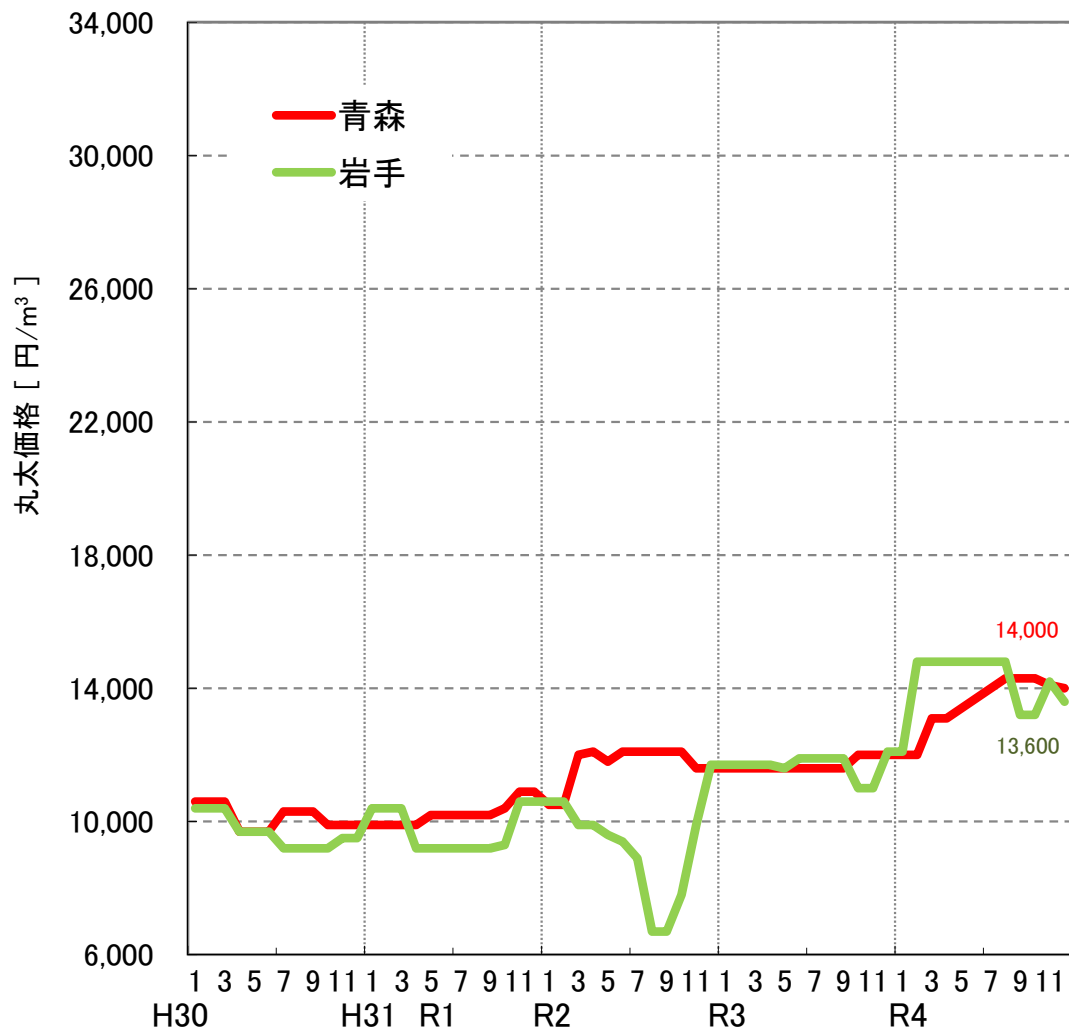


出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

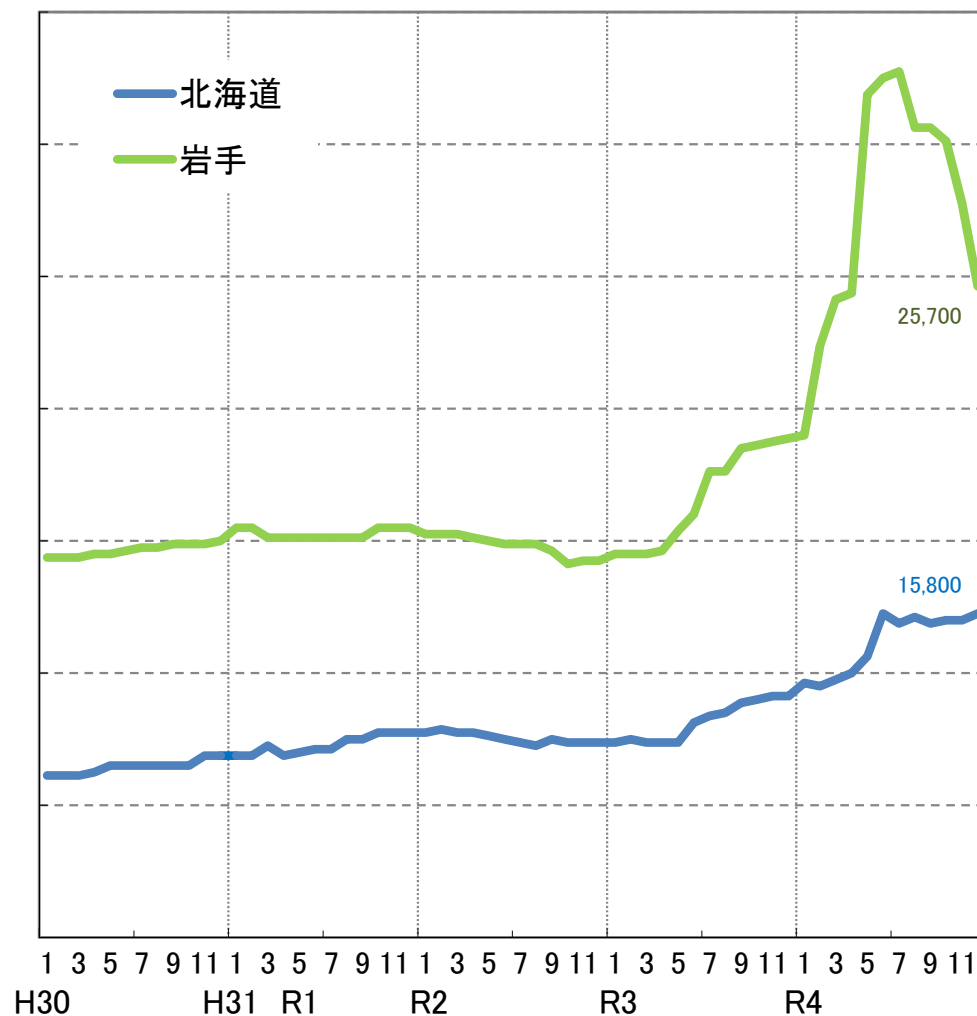
■ まつ・からまつ丸太価格の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

- まつ中丸太価格は青森、岩手とも保合。
- からまつ丸太価格は、岩手でピーク時より値下がり。岩手と北海道の価格差は9,900円。

まつ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



からまつ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)

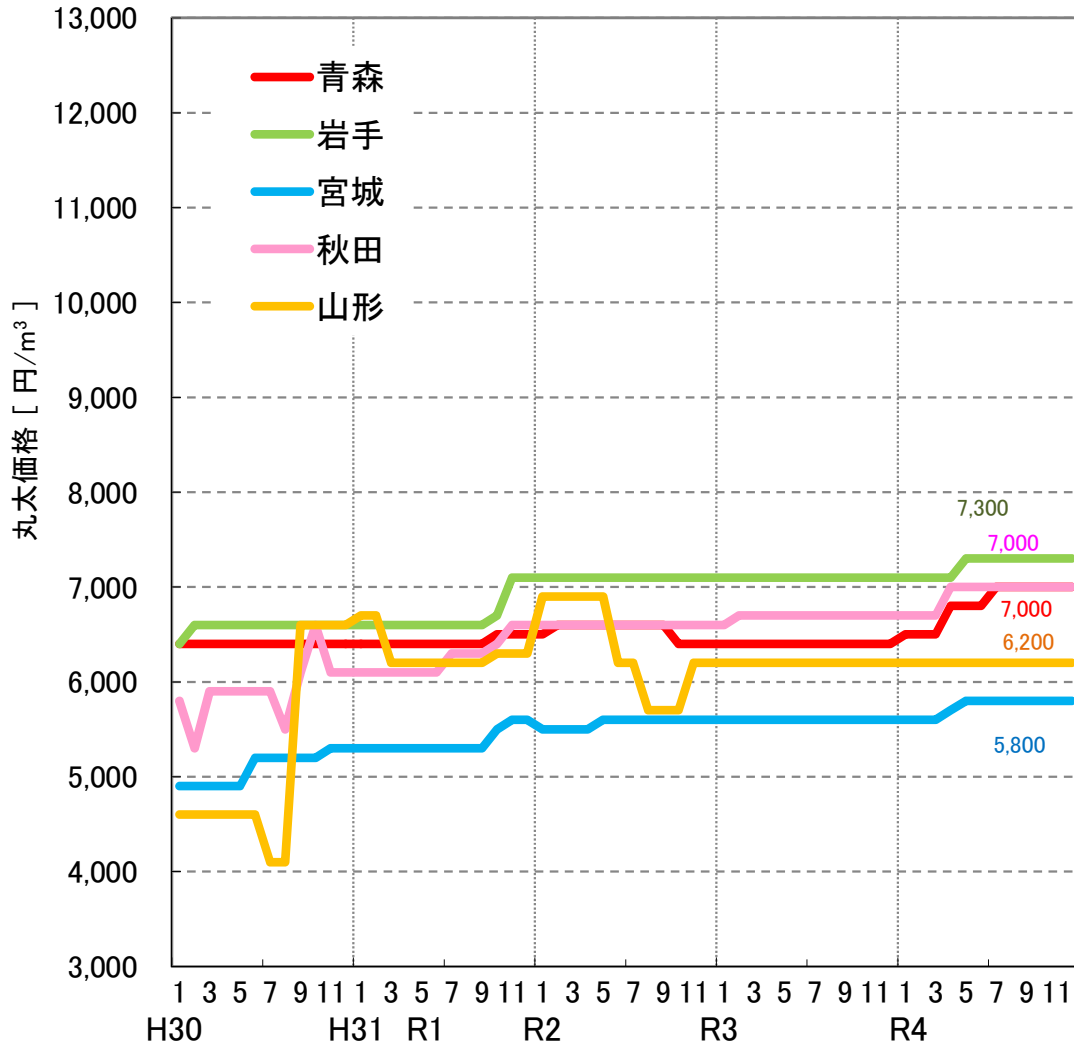


出典:農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

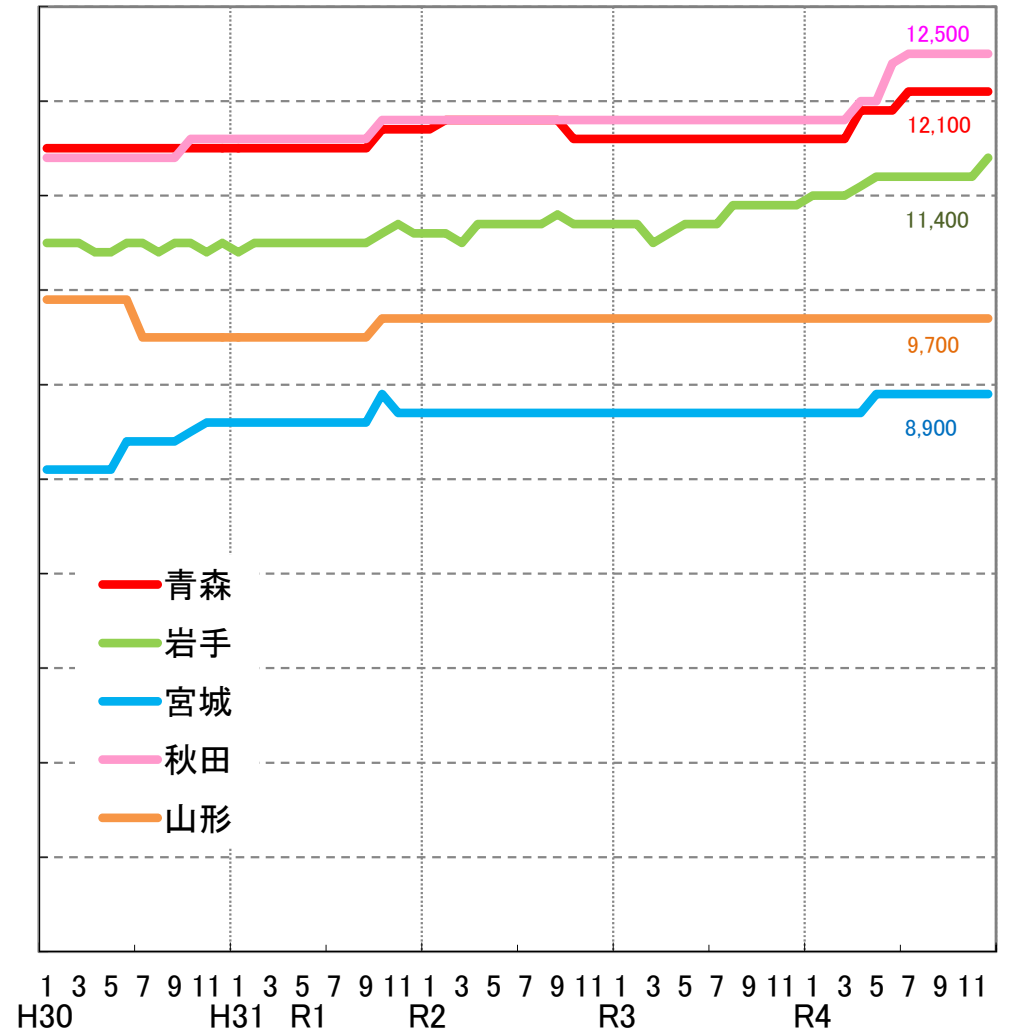
■チップ用丸太価格の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

○ チップ用丸太価格は針葉樹・広葉樹とも保合。

針葉樹材



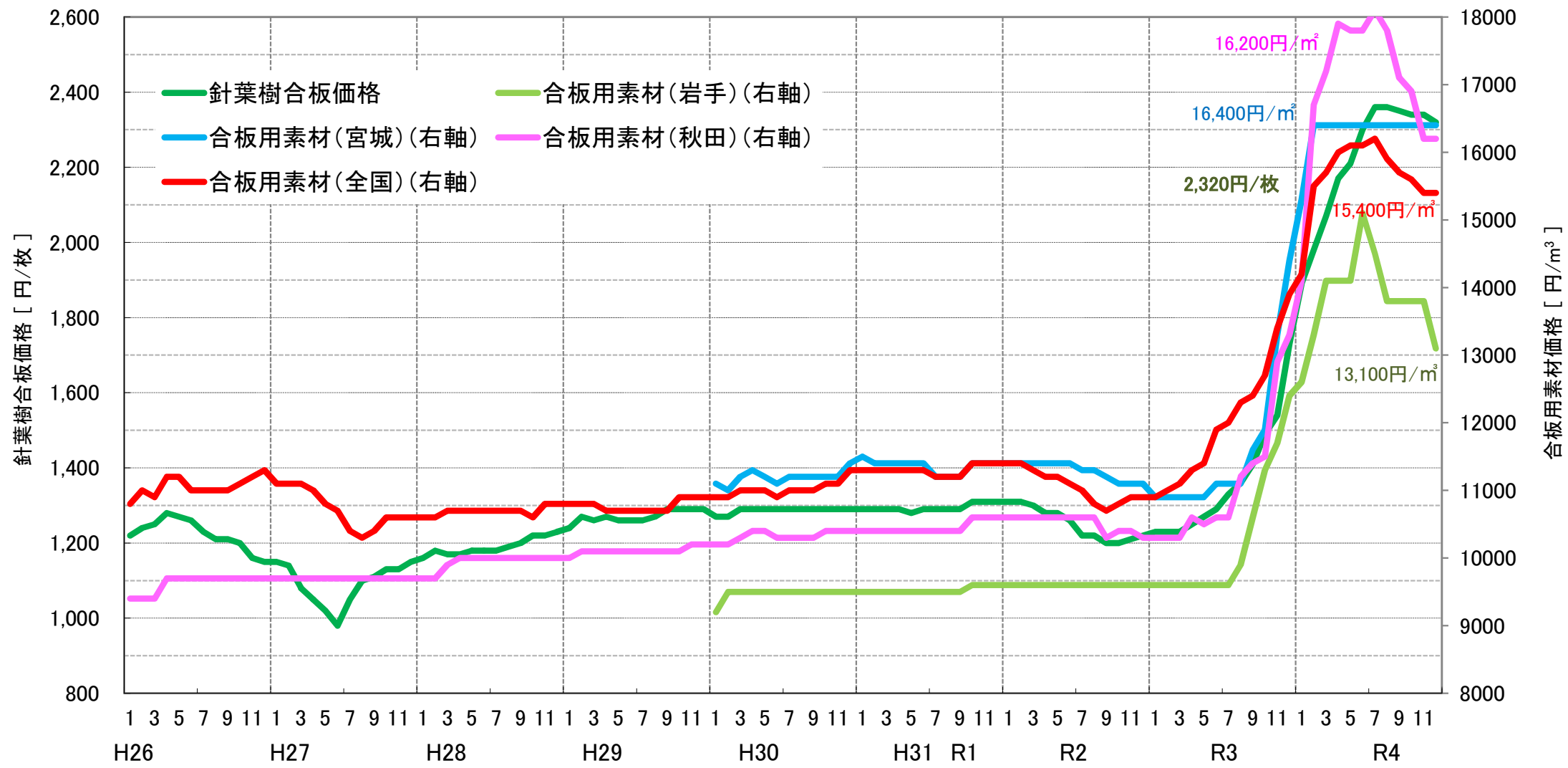
広葉樹材



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

針葉樹合板及び合板用素材価格の推移 (平成26年1月～令和4年12月)

○ 針葉樹合板価格は、2,320円/枚。
 ○ 合板用素材価格は、各県でピーク時より値下がり。

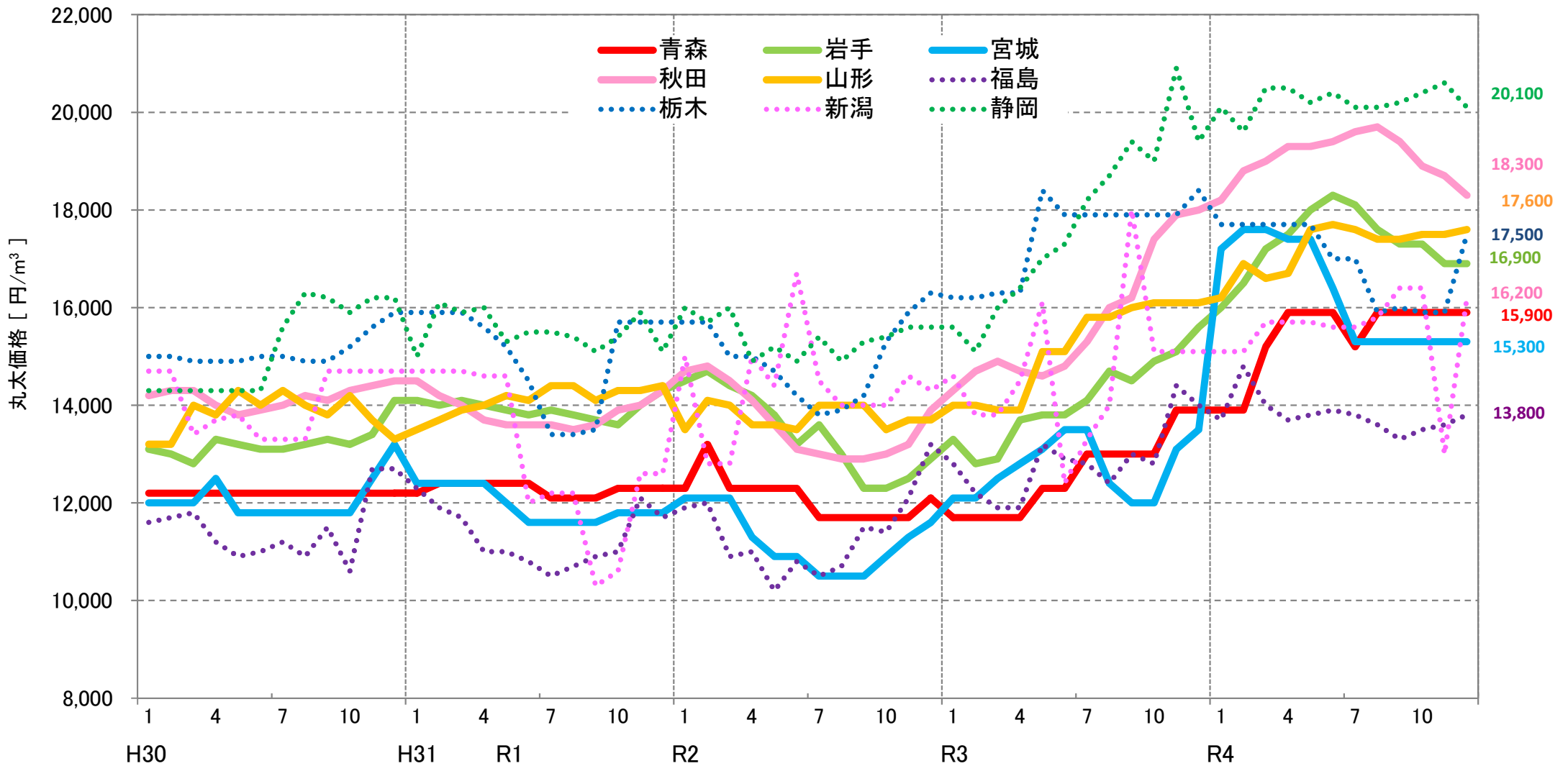


出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」
 ※ 平成30年1月に調査都道府県、調査対象工場の見直しを行ったことから、平成29年12月以前の数値とは接続しない。
 ※ 針葉樹合板価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。合板用素材価格は、合単板工場着購入価格である。

■ 関東地方との木材価格の比較 (平成30年1月～令和4年12月)

○ 福島・栃木は強含み。

すぎ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)

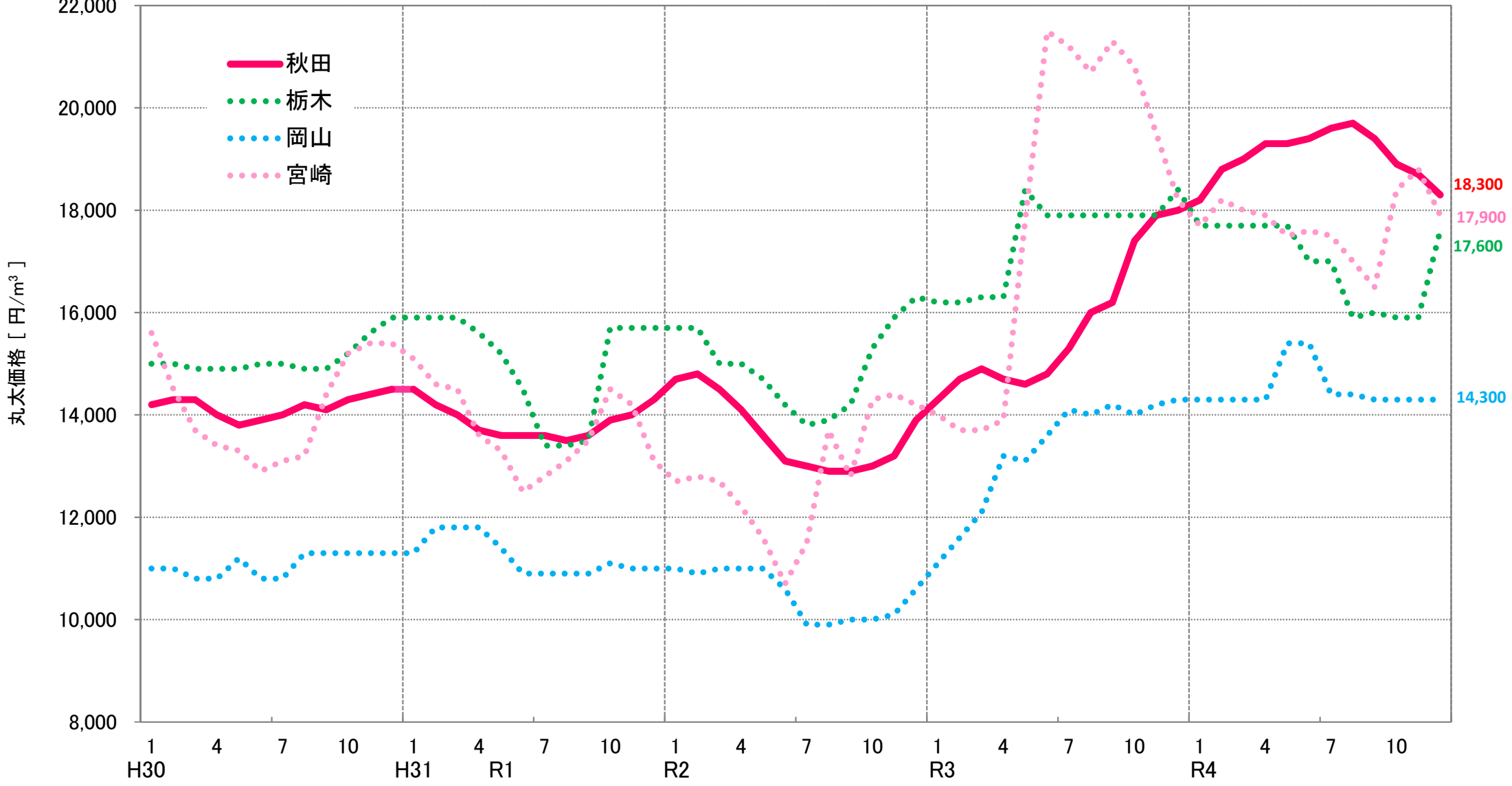


出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

■ 関東、関西、九州地方との木材価格の比較 (平成30年1月～令和4年12月)

○ 栃木は強含み。岡山は保合。

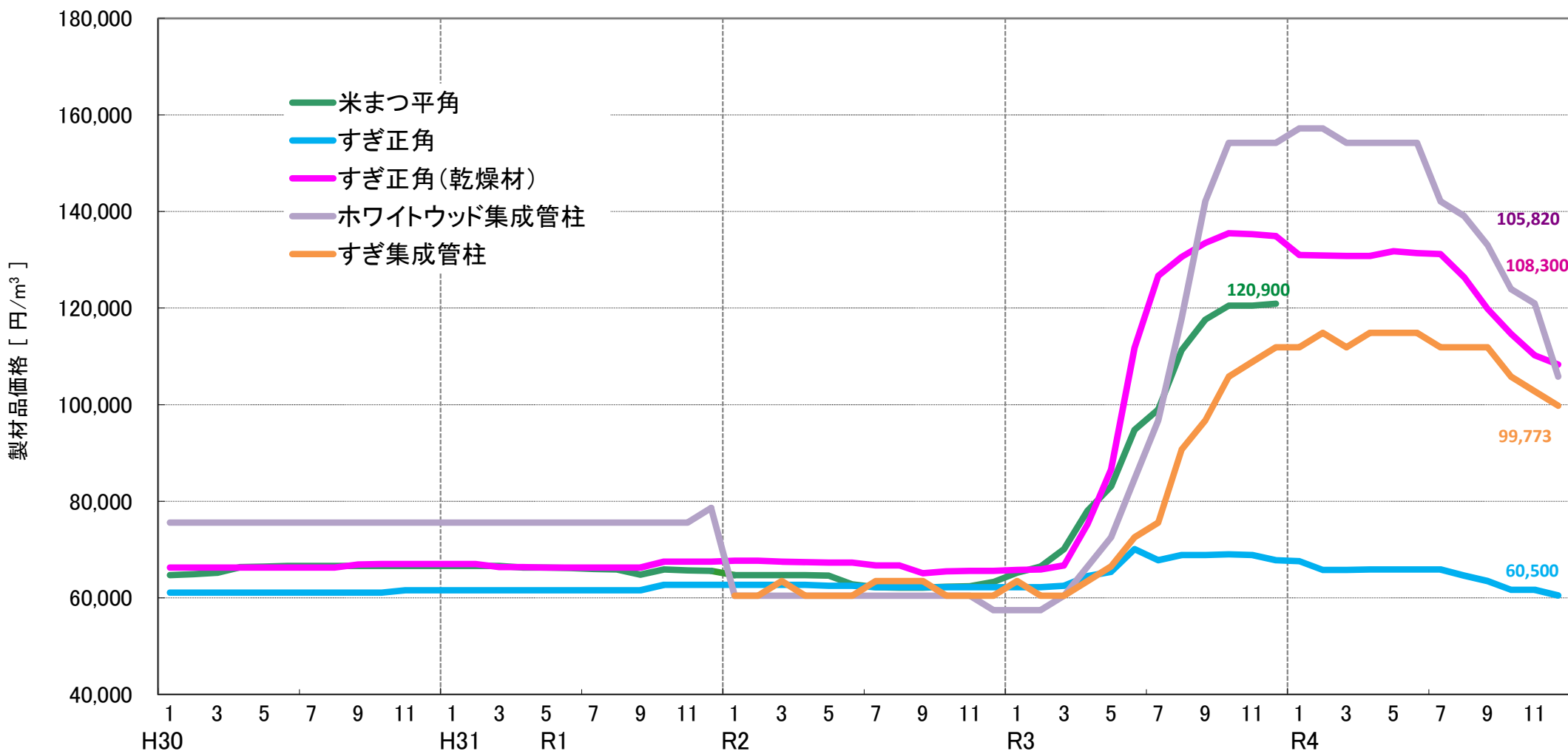
すぎ中丸太3.65～4.00m(24～28cm)



出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

■ 全国の製材品主要品目価格の推移 (平成30年1月～令和4年12月)

○ 各製品ともピーク時より値下がり。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

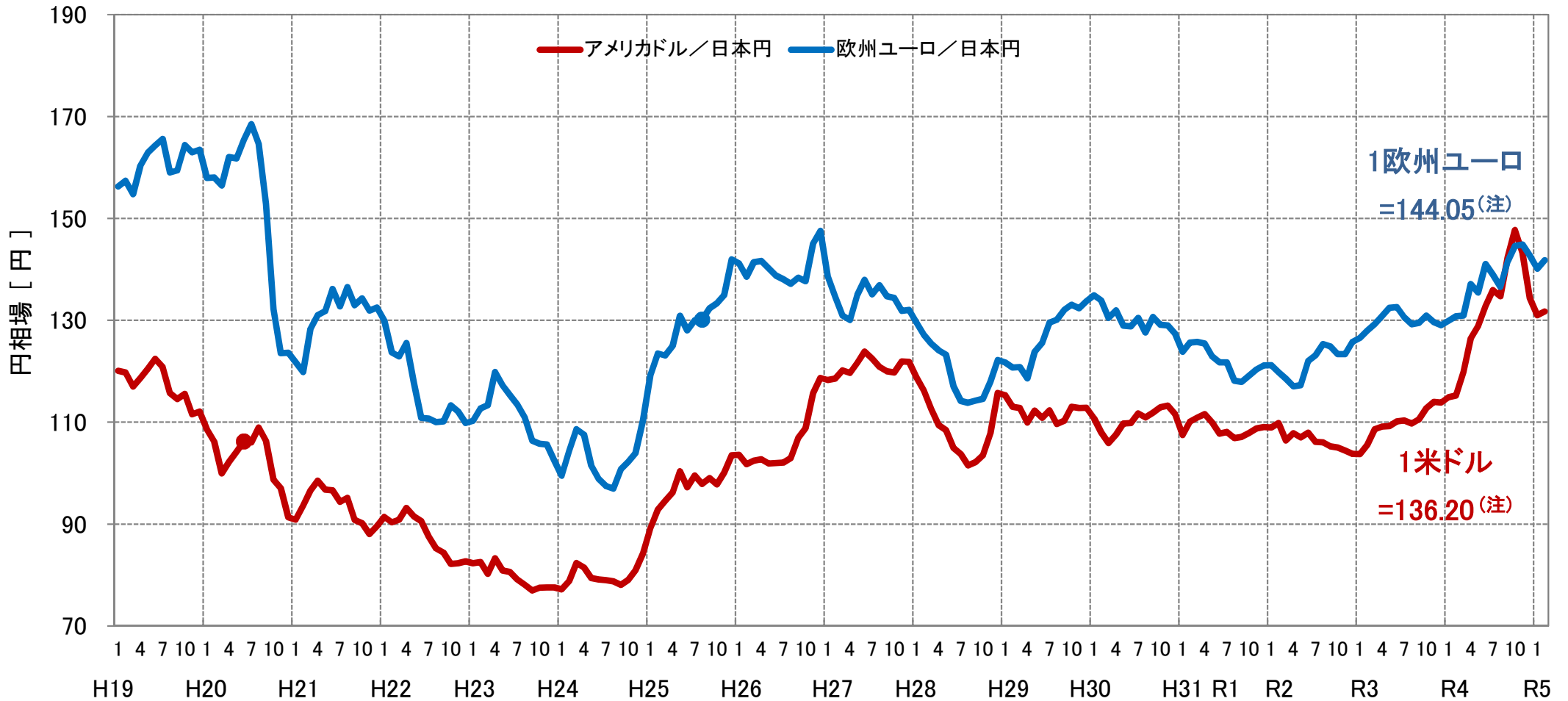
※1 価格は、令和2年1月以降のホワイトウッド集成管柱及びすぎ集成管柱は集成材工場出荷時の販売価格、それ以外は木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格となる。

※2 令和2年1月から、ホワイトウッド集成管柱は規格及び調査都道府県、調査対象工場の見直しを行い、調査価格も※1の通り変更となったことから、令和元年12月以前の数値とは接続しない。

※3 令和4年1月調査から、米まつ平角の製材品価格の把握は廃止された。

為替レートの推移 (平成19年1月～令和5年2月)

- 米ドルは、2月28日現在130円台。
- 欧州ユーロは、2月28日現在140円台。

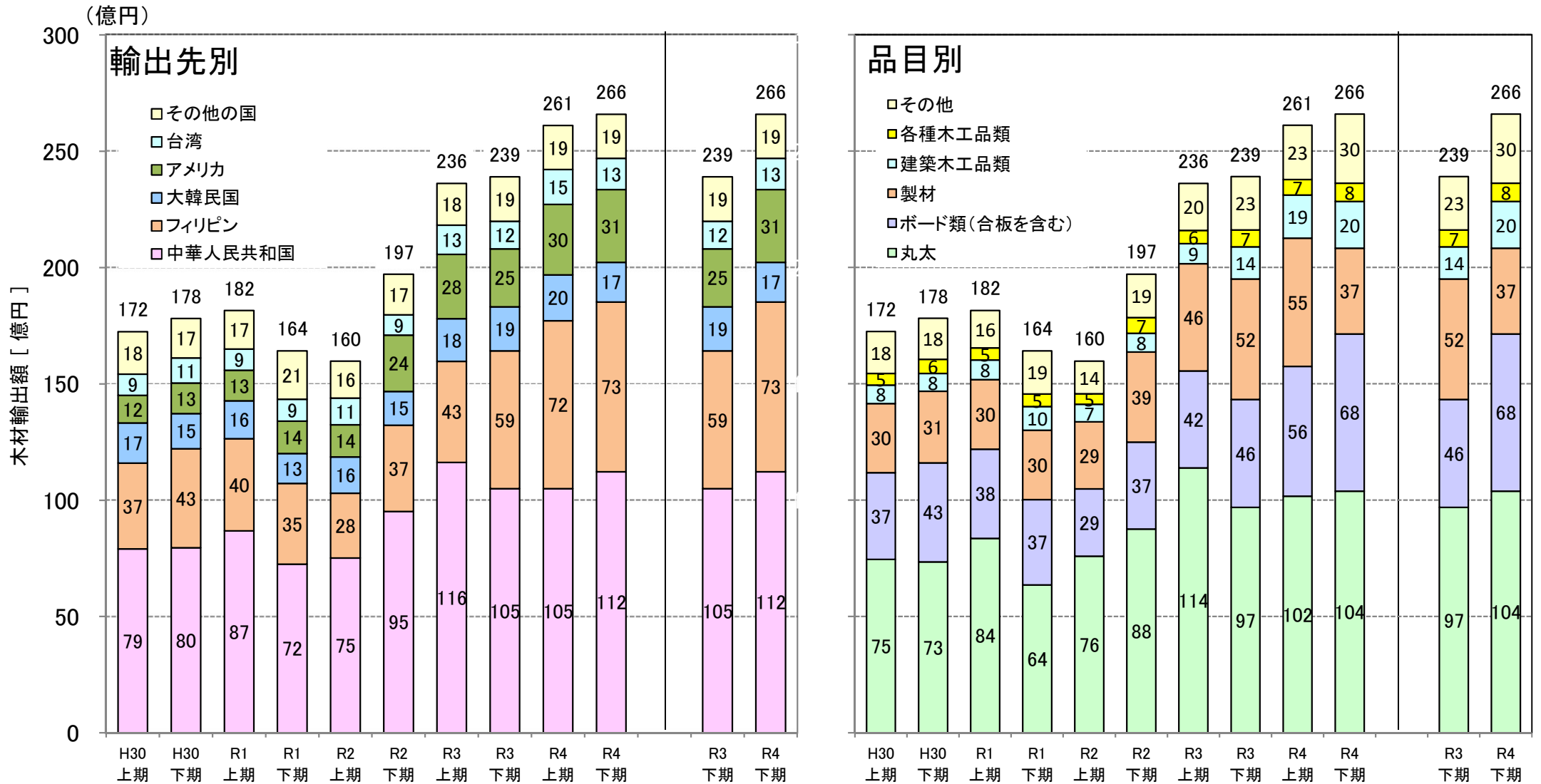


出典：Yahoo! ファイナンス(毎月の値は、月間の最高値と最低値の平均)

(注)：令和5年2月28日現在

輸出先別及び品目別の木材輸出額の推移（全国）

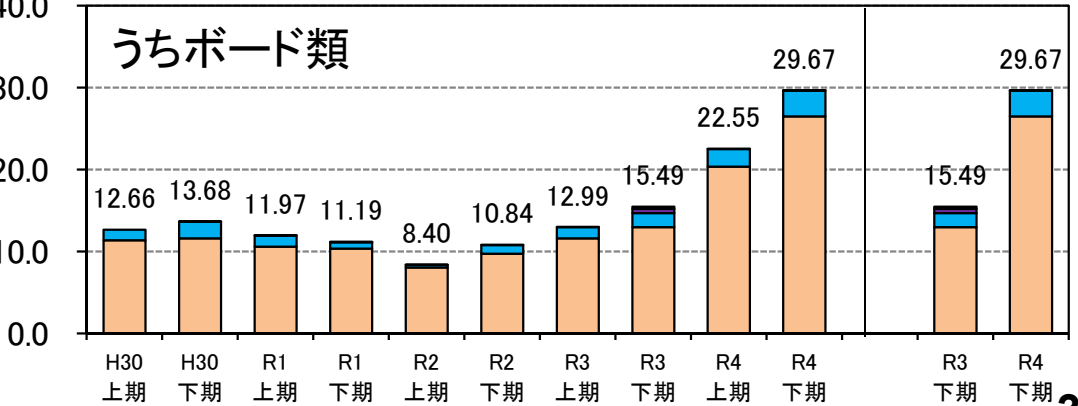
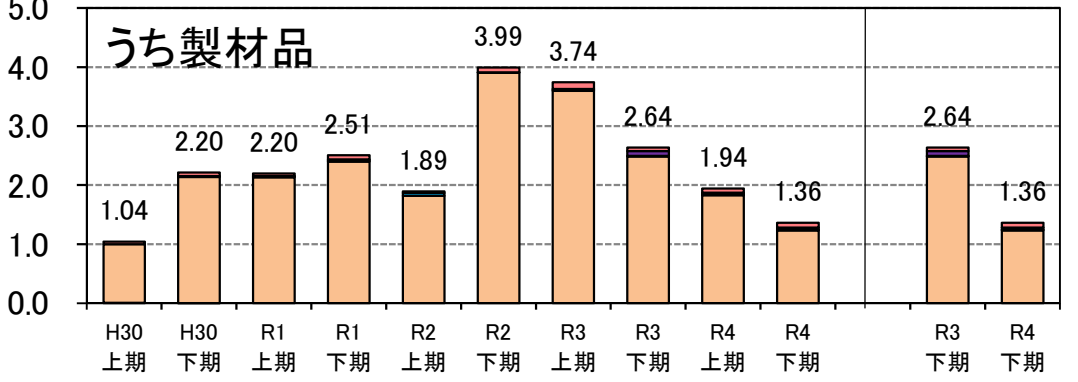
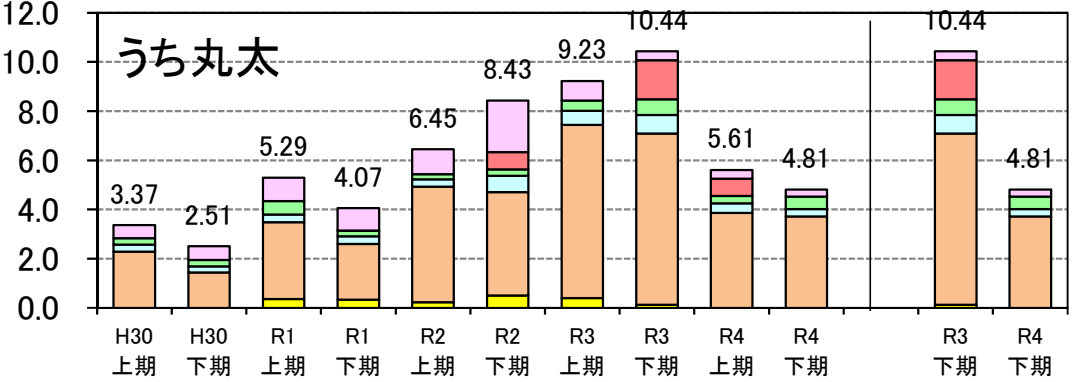
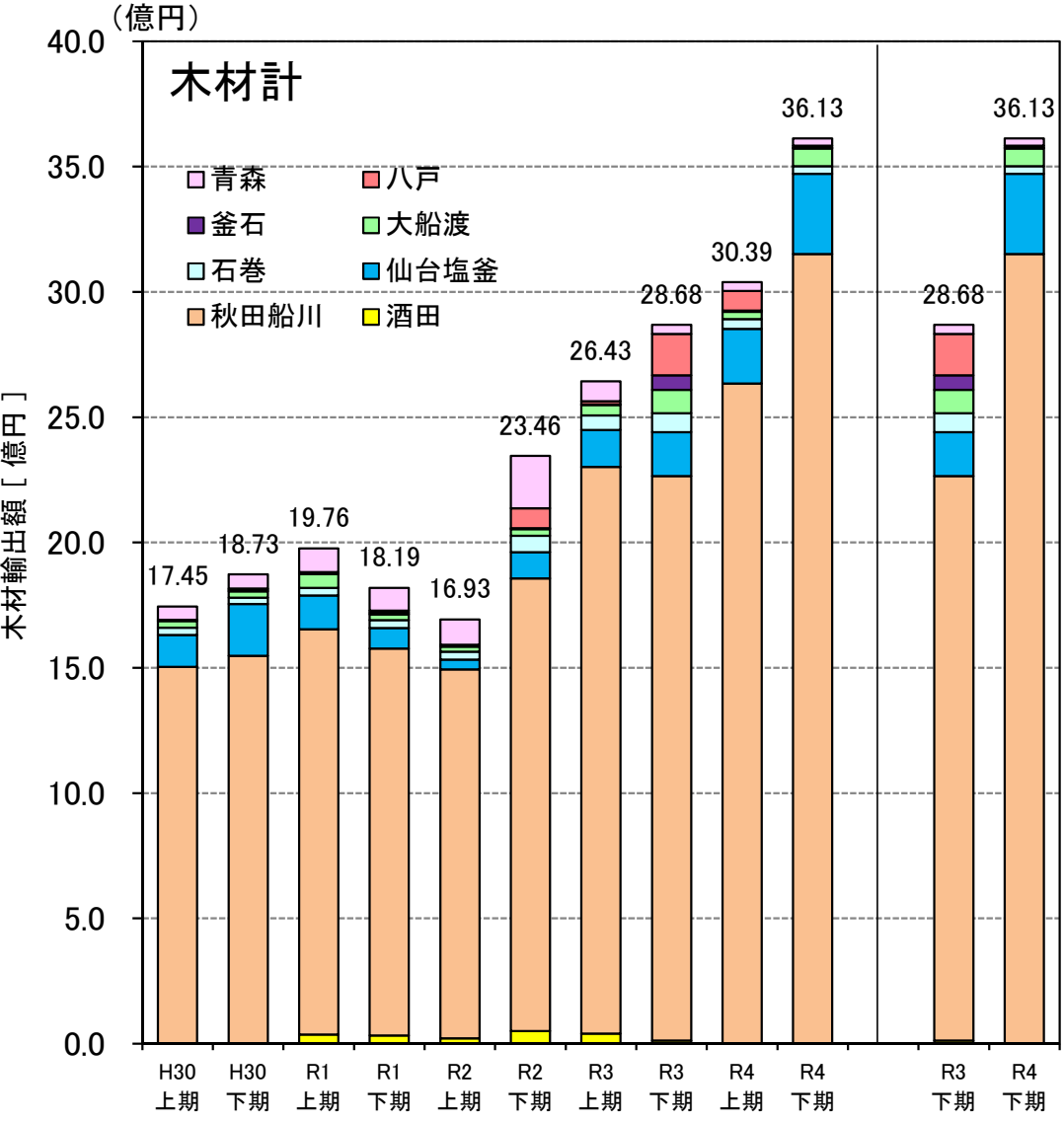
- 木材輸出額はR4年下期を昨年同期と比較すると+11%となっている。
- R4年下期の主要相手国は、中国、フィリピン、アメリカ、韓国、台湾となっている。
- 品目別輸出額では、丸太が最も高く、次いでボード類、製材となっている。
- R4年下期と昨年同期を比較すると、丸太が+7%、製材が-29%、ボード類が+46%となっている。



出典：財務省「貿易統計：統計品別国別税関別一覧表」

■ 東北5県における木材輸出額の推移

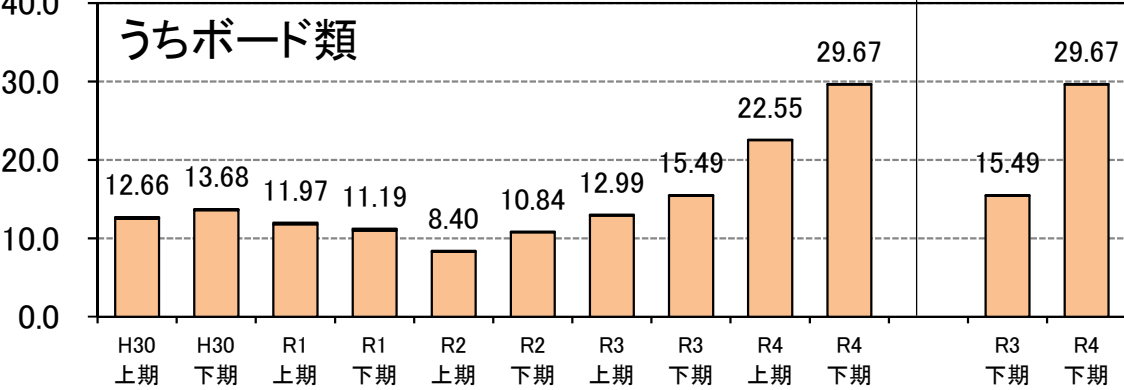
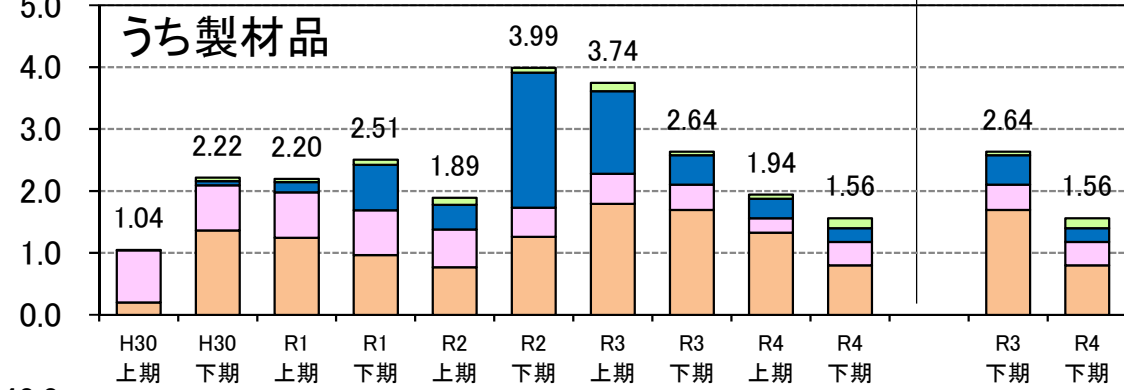
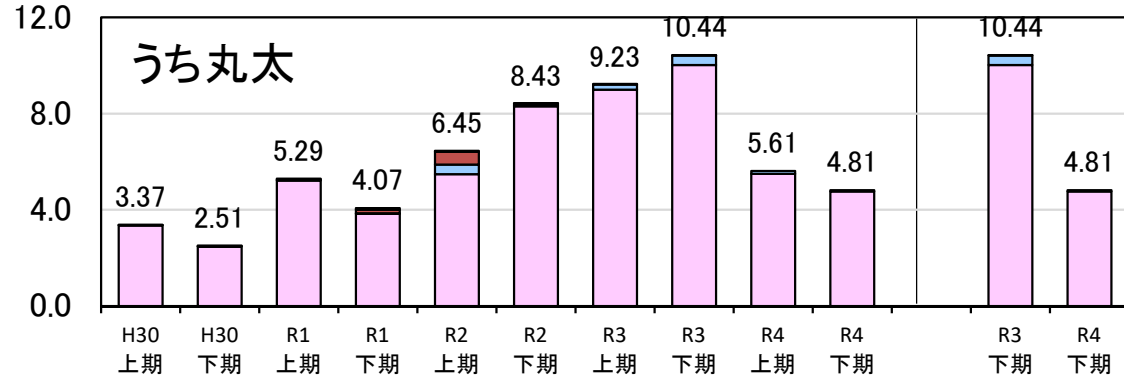
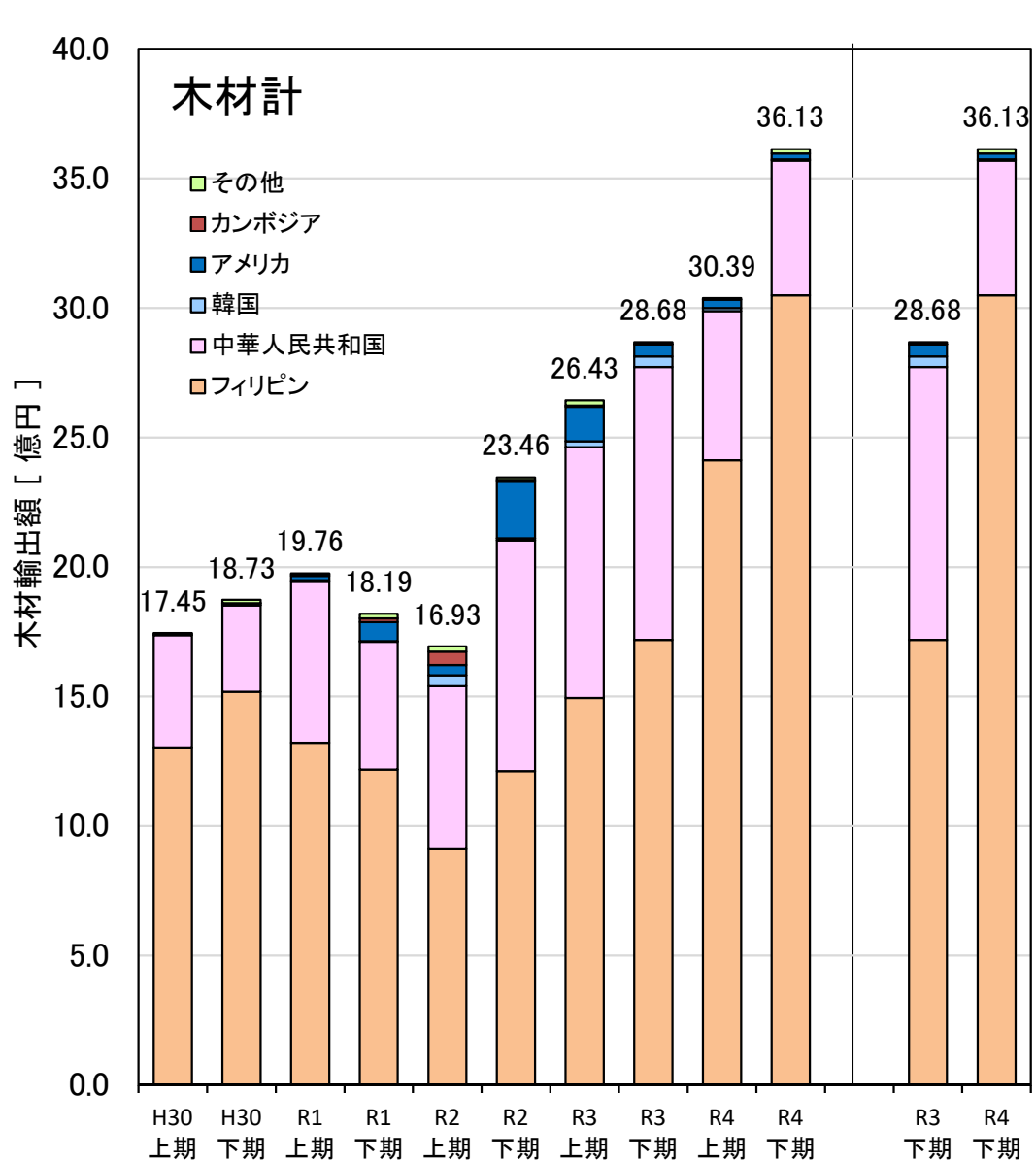
○ R4年下期と昨年同期を比較すると+26%となっている。
 ○ R4年下期と昨年同期を品目別比較すると、丸太が-54%、製材が-48%、ボード類が+92%となっている。



出典: 財務省「貿易統計: 統計品別国別税関別一覧表」

■ 東北5県における輸出先別の木材輸出額の推移

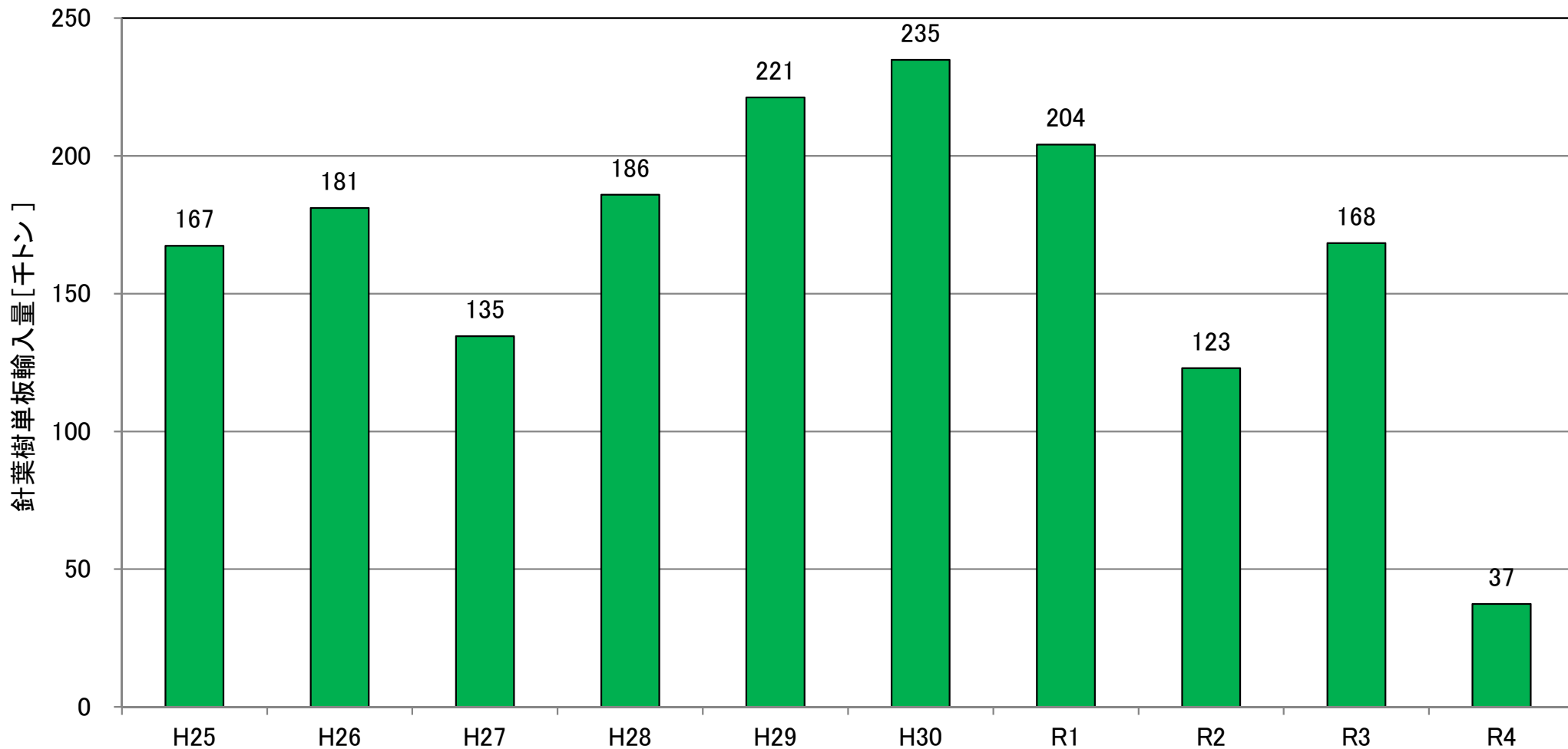
- R4年下期の木材輸出額は、フィリピンが最も多く、次いで中国、アメリカとなっている。
- 品目別では、丸太は中国が最も多く、製材、ボード類はフィリピンが最も多くなっている。



出典: 財務省「貿易統計: 統計品別国別税関別一覧表」

■ ロシアからの針葉樹単板の輸入量の推移

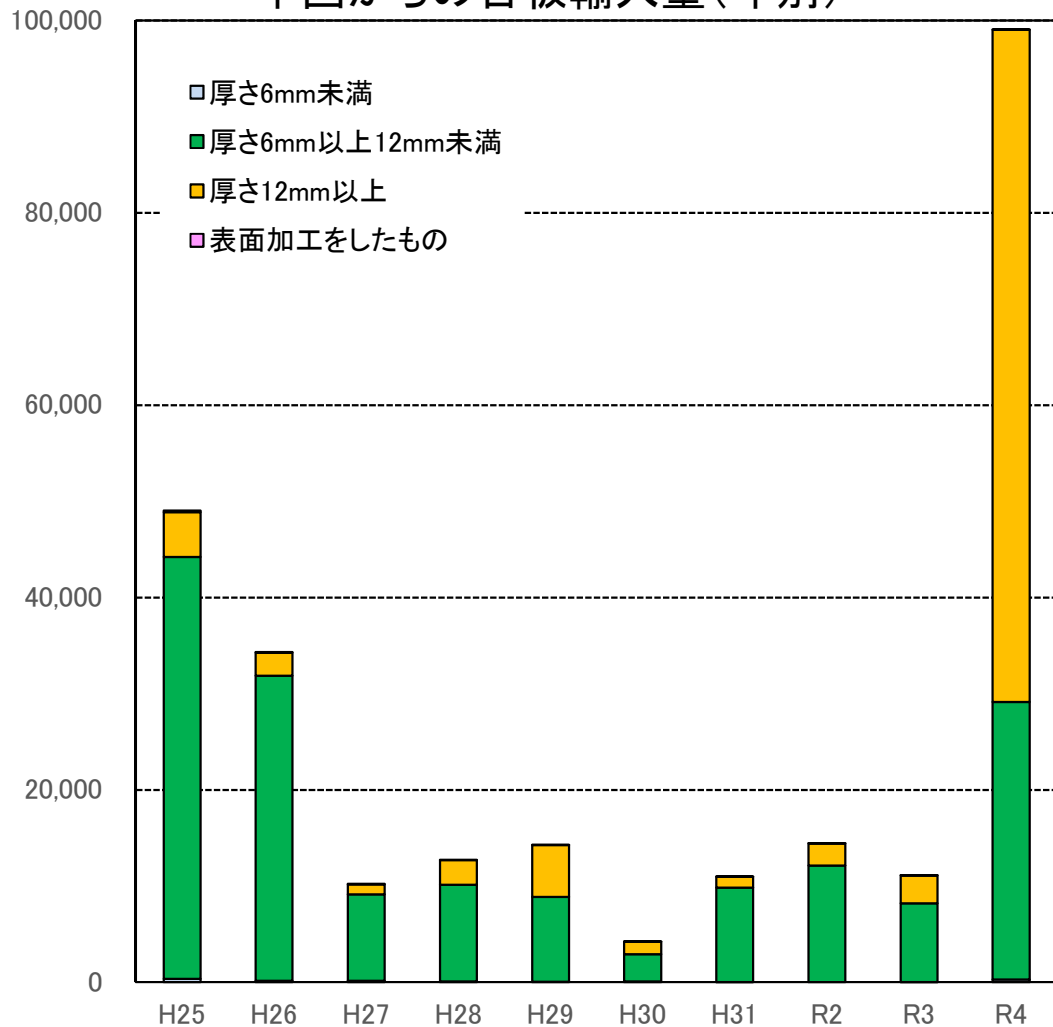
- R4年と前年を比較すると-78%となっている。
- R4年4月以降は単板の輸入実績がなかった。



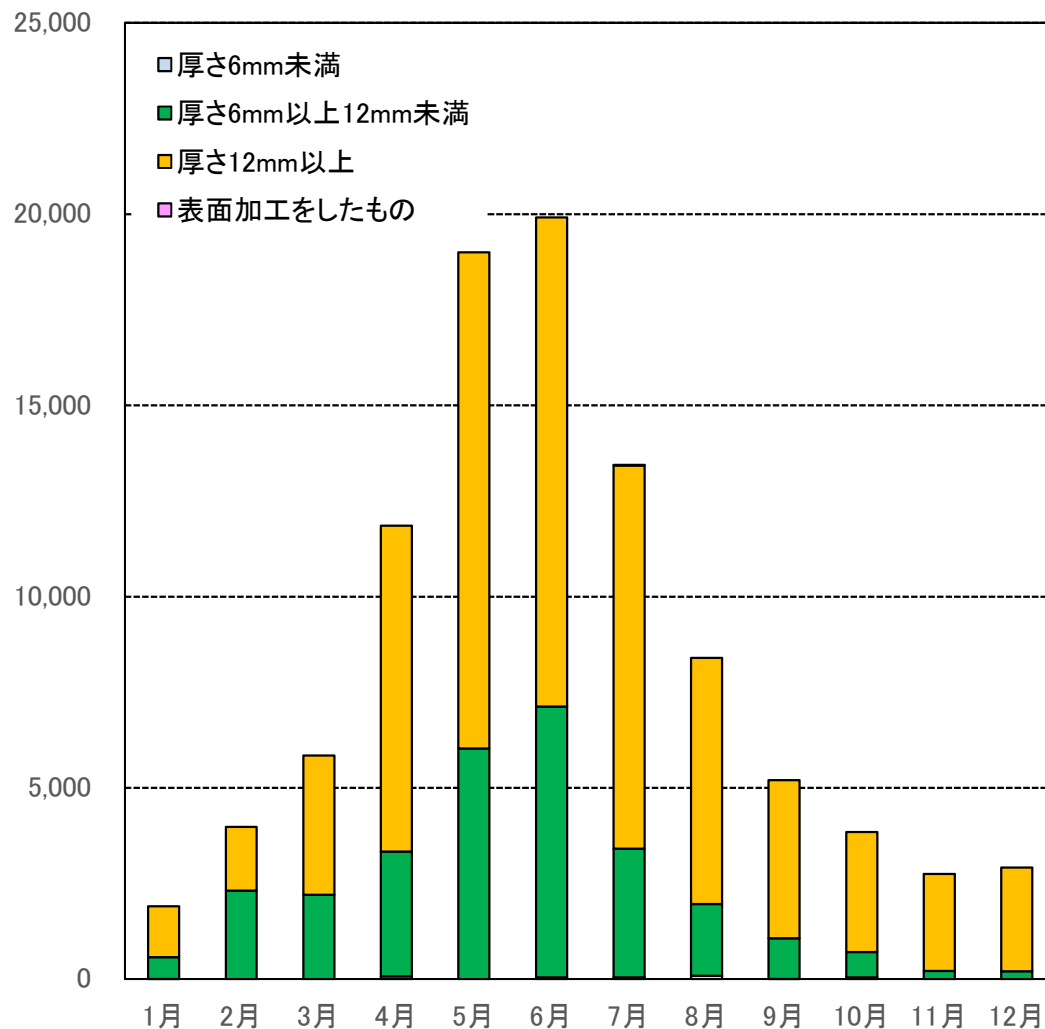
中国からの針葉樹合板の輸入量の推移

- R4年と前年を比較すると+1,234%となっている。
- R4年の輸入量を月別に見ると、6月が最も多くなっている。

中国からの合板輸入量(年別)



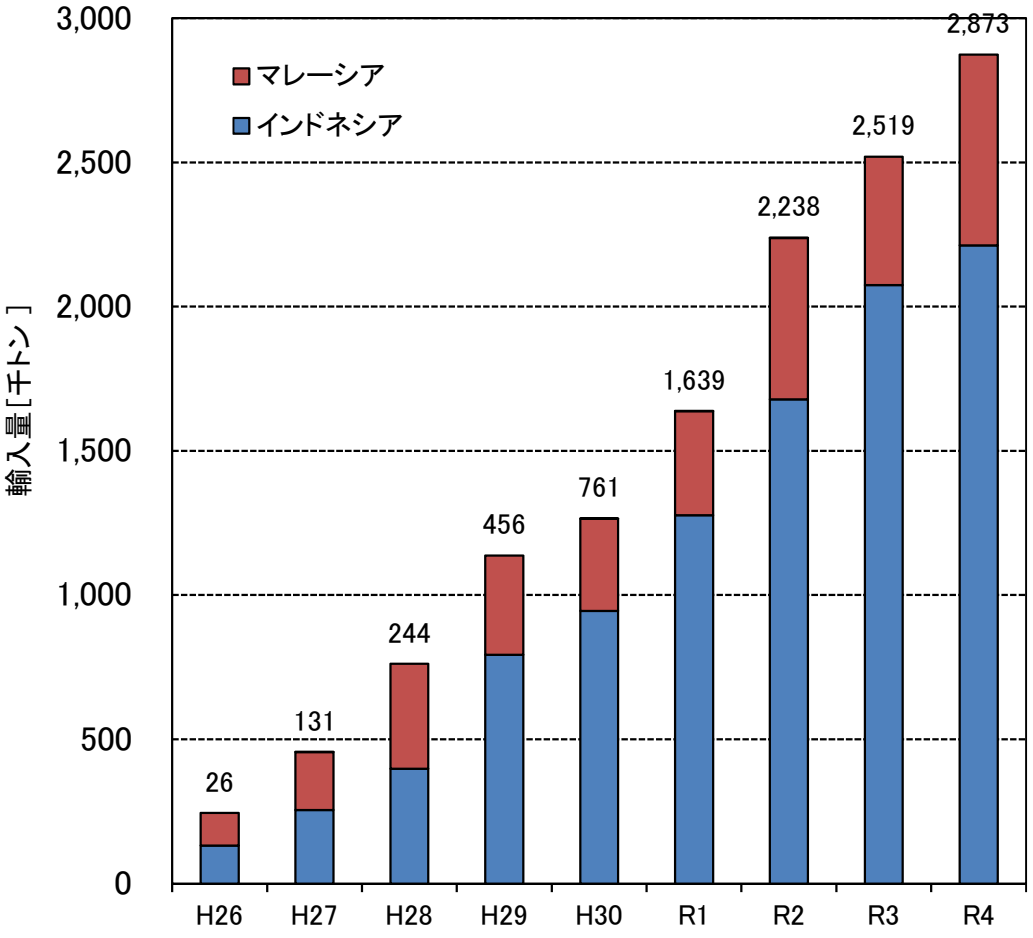
中国からの針葉樹合板輸入量(R4、月別)



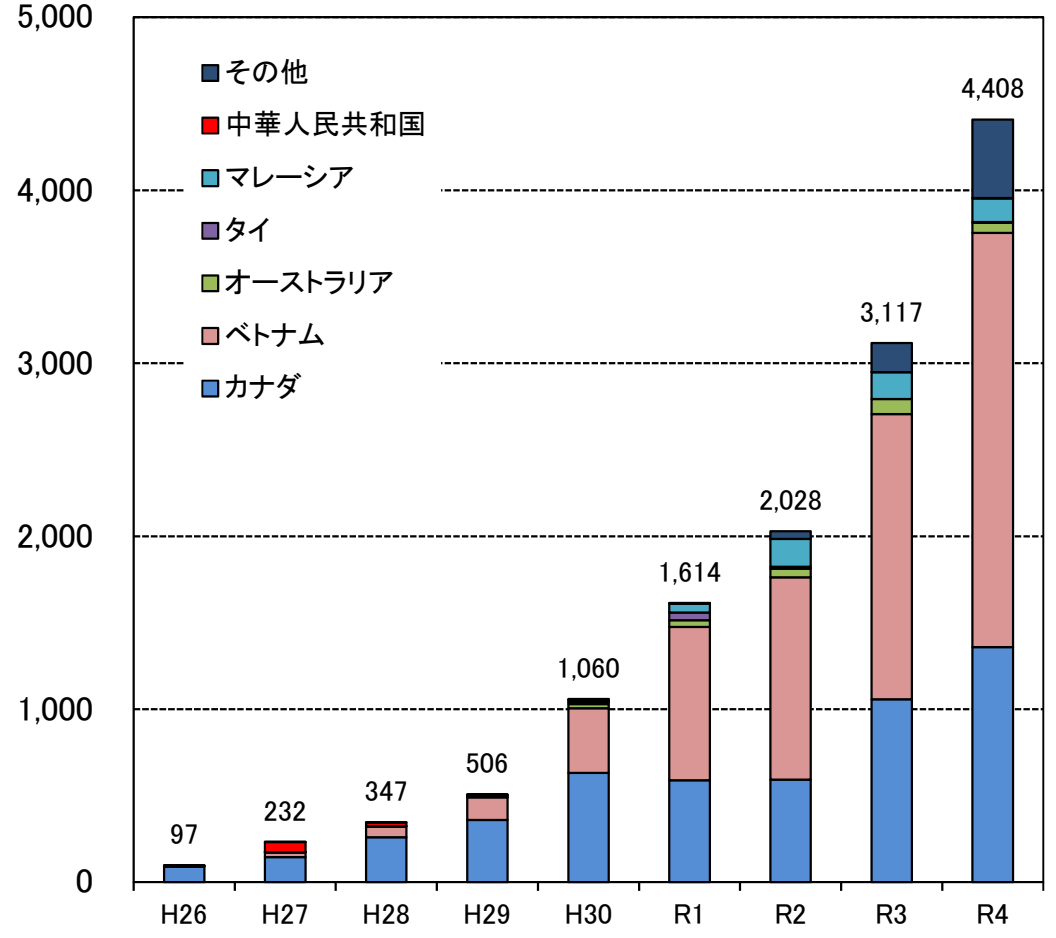
PKS・木質ペレットの輸入量の推移

- PKS輸入量は、R4年と前年を比較すると+14%となっている。
- 主な輸入相手国は、インドネシア77%、マレーシア23%となっている。
- 木質ペレット輸入量は増加しており、R4年と前年を比較すると+41%となっている。
- 主な輸入相手国は、ベトナム54%、カナダ31%、マレーシア3%、オーストラリア1%となっている。

PKS



木質ペレット



出典：財務省「貿易統計：品別国別統計」